

ホンデュラス共和国
看護教育強化プロジェクト
巡回指導調査団報告書

平成6年4月

国際協力事業団
医療協力部


医協二

J R

94 - 40

ホンデュラス共和国看護教育強化プロジェクト巡回指導調査団報告書



JICA LIBRARY

1122085 (2)

28391

ホンデュラス共和国
看護教育強化プロジェクト
巡回指導調査団報告書

平成6年4月

国際協力事業団
医療協力部



序 文

ホンデュラス共和国看護教育強化プロジェクトは、平成2年9月1日から5年間の協力期間を設定し、看護教育に対する技術移転により、看護補助員養成及び看護婦養成の強化を通じて同国の公衆衛生の改善に寄与するため、看護補助員養成校3校及び自治大学看護学部3校において看護教育技術の移転を実施しているものです。

平成6年3月、協力開始後約3年半余りが経過し、プロジェクト協力期間も残り1年半となり、本プロジェクト派遣中の専門家の活動状況、ホンデュラス側の対応等現状を確認し、プロジェクト実施上の問題点把握と今後の対応策についてホンデュラス側、日本側専門家及び現地日本国大使館・JICA事務所等関係者と協議することとし、同年3月23日から4月2日まで巡回指導調査団を派遣しました。

本報告書は、その調査結果をとりまとめたものです。ここに、本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる感謝の意を表しますと共に、プロジェクトの効果的な実施のために、今後共関係各位に対しましてご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成6年4月

国際協力事業団
医療協力部長
小早川 隆敏



M/M署名



プロジェクト・サイト前

目 次

序 文 写 真

1. 巡回指導調査団派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	3
1-3 調査日程	4
1-4 主要面談者	4
1-5 調査及び協議の概要（ミニッツ要旨の仮訳）	5
2. 総括報告	8
3. 分野別報告（現状と問題点）	12
3-1 看護教育の理論及び方法の改善	12
3-2 看護教育カリキュラムの改善	13
3-3 社会奉仕活動の強化・改善	14
3-4 看護教育技術の改善（教材作成技術）	16
3-5 看護教育用教科書の開発及び改善	17
3-6 研修員の受入れと今後の研修計画	19
4. 協力方式別実績及び計画	24
4-1 専門家派遣	24
4-2 研修員受入れ	26
4-3 機材供与	27
4-4 ローカルコスト負担	29
附属資料	
① ミニッツ（議事録）	33
② 1992・1993年のテグシガルパ看護補助員養成校における授業展開	67
③ 看護教育カリキュラム	68
④ 旧カリキュラムと新カリキュラムとの比較	69

⑤ 自治大学の新たなカリキュラムについて	70
⑥ 看護教育カリキュラム（3年課程）	71
⑦ 看護教育カリキュラム（学士課程）	72
⑧ 看護教育制度（ホンデュラス共和国・1993年）	73
⑨ 医療サービスシステム（ホンデュラス共和国）	74
⑩ 1993年の授業展開図式（看護補助員養成校の例）	75
⑪ 現地セミナー開催実施報告書	76

1. 巡回指導調査団派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

(1) プロジェクトの経緯

ホンデュラス共和国（以下、ホンデュラスと略す）は、国民、とりわけ農村地域の住民に対する保健衛生サービスの充実、及び乳幼児死亡率の低下を図ることを基本的保健政策として掲げている。しかしながら、農村地域では保健サービスの担い手である看護婦（多くの地域では地域保健所で勤務する看護婦が予防接種、栄養失調対策、母子保健などの幅広い公衆衛生活動を行っている）が絶対的に不足しており、また、その技術水準も低いことから、住民の保健ニーズに十分対応できないでいた。

かかる背景から、1988年7月11日同国政府は我が国に対し、保健省管轄の看護補助員養成学校及び国立自治大学看護学部（正看護婦教育）を対象にしてプロジェクト方式技術協力を要請越した。これを受け我が国は、看護補助員養成学校3校及び国立自治大学看護学部3校に対して1990年9月1日より5年間にわたり専門家派遣、研修員の受入れ、機材供与を柱とするプロジェクトを実施することとし、1990年8月16日実施協議議事録（R/D）を署名・交換した。双方で合意された技術協力の目的は、①緊急に対応が必要な分野における看護教育の理論及び方法の改善、②看護教育カリキュラムの改善、③農村及び都市周辺部における実践教育技術の改善及び強化、④看護教育技術の改善、⑤看護教育用の教科書の開発及び改善である。

本プロジェクトは協力開始後4年目に入り、現在6名の長期専門家を配置し、協力を実施している。具体的には、看護教育カリキュラムの分析、改善及び教材の作成、実習、授業への助言を中心に協力を進めており、プロジェクトオフィスに近いテグシガルパ看護看護補助員養成校については教師の動機付け等著しい成果を上げつつあるが、以下のような問題も残されている。

- ① 地理的要因等により学校毎の進捗状況に差があり、特に Cholteca 校では年間授業計画の実施遅延等、学校管理体制に改善が見られず、授業計画の改善・研究を行う体制となっていない。
- ② 自治大学の新たなカリキュラムが1994年9月より実施される予定であるが、先方より具体的なカリキュラムがいまだに提示されていない。
- ③ 教科書作成については、先方に経験者が少なく、個々のマニュアル等は具体的な成果品があるが、看護の基本となる教科書はいまだ成果品として提示されていない。

(2) 調査団派遣の目的

本調査団は、プロジェクト発足以降の活動進捗状況の把握、問題点の調査・検討を行うと共に、相手国プロジェクト関係者とR/D締結後の詳細な年次計画を検討し、協力内容の適正化を図ることを目的とした。また、協力期間も残り約1年半となり、1995年2月頃に評価調査団

を派遣する予定であるところ、評価方法、項目について相手方と協議する。具体的には以下の点について視察、調査及び協議を行った。

1) プロジェクト視察及び情報収集

① テグシガルパ看護補助員養成学校の視察及びサンペドロスーラ自治大学・看護補助員養成学校の視察

応急対策費で補修した教室も含め、これまでの供与機材の使用状況・保守管理状況等関連情報を聴取した。

② 派遣中専門家の活動状況視察

派遣中専門家の活動拠点、勤務環境、カウンターパートの配置等を視察すると共に関連情報を聴取した。また、併せて帰国研修員の活動状況を視察した。

2) ホンデュラス側関係機関との協議

① 保健省

最新の同国の保健医療政策、看護教育における本プロジェクトの位置付けについて説明を受けた。

② 合同委員会：次の各項目について協議を行った。（詳細はミニッツ及び分野別報告参照）

a) 専門家派遣計画

上記情報収集等に基づき、改善されるべき点等を整理し、双方の今後の対応を検討した。公衆衛生専門家は当初長期専門家の派遣を計画していたが、リクルートが困難であるため短期専門家で対応することとなった。

b) 研修員受入れ計画

帰国研修員を含め、先方の要望を聴取すると共に我が方の受入れシステムについて更に理解を得るよう説明した。日本での研修は高く評価されており、希望者が多く、平成7年度において研修員枠の拡大の検討をするよう要望があった。平成6年度来日予定の研修員の面接をし、技術レベル、語学力、希望研修内容、希望研修機関、時期の確認をした。

c) 機材供与計画

供与済機材について先方評価を聴取すると共に残余期間の我が方計画を説明した。特に、この機材供与は技術移転のための機材であること、及び、消耗品は供与できないことを説明した。看護学生が実習を行う病院への実習用機材供与の要望があった。

d) ローカルコスト負担

これまで、応急対策費により自治大学ラセイバ校及びサンペドロスーラ看護補助員養成学校が整備されたが、平成6年度においても自治大学サンペドロスーラ校及びテグシガルパ看護補助員養成学校に対しての応急対策費の申請があるので、その妥当性について検討するため、時間の都合上、自治大学サンペドロスーラ校のみであったが、現状を

視察した。

e) その他ホンデュラス側実施体制

Cholteca校での活動の遅れの問題については、学校の運営を強化、そのための人員の補強を申し入れた。教科書作成の遅れについては、一部を印刷製本まで、残りは原案作成をプロジェクト期間内に終了させることを目標とすることにした。また、教科書作成を促進させるために、看護補助員養成校3校においてそれぞれ1名増員することとなった。(分野別報告参照)

1994年より実施予定の自治大学の新カリキュラムについての説明を受けた。

3) 現地日本国大使館及びJICA事務所との協議

上記2)の各項目について背景説明を受けると共に、実施促進について更に協力を依頼した。

4) 今後の実施計画案の提示

上記2)の協議内容について整理し、ミニッツにまとめ、署名・交換した。

1-2 調査団の構成

	担 当	氏 名	所 属
団長	総 括	矢野 正子	東京大学健康保健学科基礎看護教室教授
団員	看 護 教 育	井手 信	聖マリア学院短期大学副学長、看護学科教授
団員	看護研修計画	阿部 泰子	厚生省看護研修研究センター教務科長
団員	協 力 計 画	大野 裕枝	国際協力事業団医療協力部医療協力2課職員

1-3 調査日程

日 順	月 日	曜日	移 動 及 び 業 務
第1日	3・23	水	移動 成田 (12:00) → ニューヨーク (10:50) JL066
2日	・24	木	移動 ニューヨーク (07:08) → マイアミ (10:10) AA881 マイアミ (11:20) → テグシガルパ (12:51) AA953 JICA事務所表敬及び打合せ C/P研修員候補2名と協議
3日	・25	金	テグシガルパ看護補助員養成校視察 在ホンデュラス日本国大使館表敬、経済企画省表敬、保健省表敬
4日	・26	土	資料整理
5日	・27	日	資料整理
6日	・28	月	北部看護補助員養成校視察 (サンペドロスーラ) 帰国研修員と打合せ 自治大学サンペドロスーラ校視察
7日	・29	火	合同委員会 6施設長会議 ミニッツ作成
8日	・30	水	ミニッツ作成 日本国大使館報告 ミニッツ署名・交換
9日	・31	木	移動 テグシガルパ (14:00) → マイアミ (17:19) AA954 マイアミ (19:05) → ニューヨーク (21:55) AA988
10日	4・1	金	移動 ニューヨーク (12:30) → JL005
11日	・2	土	移動 → 成田 (16:10)

1-4 主要面談者

(1) ホンデュラス側

1) 厚生省

Dr. Juan de Dios Paredes	副大臣
Dra. Virginia Espinoza	副大臣
Dr. Jorge Alberto Medina	人的資源局長
Lic. Zurema Aguilar	看護課長
Lic. Glenada Ruiz	計画局

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 2) 経済企画省 | |
| Lic. Guadalupe Hung | 担当官 |
| 3) 看護協会 | |
| Lic. Gertalina Cerrato | 会長 |
| 4) 看護強化プロジェクト | |
| Lic. Liliana Mejia | コーディネーター |
| Lic. Juana Carolina buchanan | 自治大学テグシガルバ校看護学部長 |
| Lic. Martha Julia de Blair | 自治大学サンペドロスーラ校看護学部長 |
| Lic. Iveth de Castañeda | 自治大学ラセイバ校看護学部長 |
| Lic. Mayra Chang | テグシガルバ看護補助員養成校校長 |
| Lic. Alba Luz Collart | テグシガルバ看護補助員養成校学科長 |
| Lic. Sonia Bueso de Serrano | サンペドロスーラ看護補助員養成校校長 |
| Lic. Yolanda Argeñal | チョルテカ看護補助員養成校校長 |

(2) 日本側

- | | |
|------------------|--------|
| 1) 在ホンデュラス日本国大使館 | |
| 浜野美智夫 | 特命全権大使 |
| 三浦 春吉 | 二等書記官 |
| 2) JICAホンデュラス事務所 | |
| 長瀬 威 | 所長 |
| 小澤 正司 | 職員 |
| 3) 看護強化プロジェクト | |
| 菅原 能子 | リーダー |
| 九笹 逸郎 | 調整員 |
| 森 淑江 | 長期専門家 |
| 村上友美子 | 長期専門家 |
| 林 純子 | 長期専門家 |

1-5 調査及び協議の概要（ミニッツの要旨の仮訳）

Ⅲ. 今後のT S I

T S Iに基づき（今後1年半の活動について）以下のことに合意した。

a) 緊急に対処を要する領域における看護教育理論及び方法の改善

*セミナーを通して授業計画の計画立案を強化する。

*実習の実施・評価における重要ポイントを明確化する。

- * 実習の新しい評価方法を確立する。
- * 母子看護分野の実習を強化する。
- * 教授方法の展開におけるさまざまな教材の利用を強化する。

b) 看護教育カリキュラムの改善

- * プロジェクトの調査を通して自治大学の新たなカリキュラムを強化する。
- * 看護補助員要請カリキュラムの展開を引き続き支援する。
- * 必要に応じて、カリキュラム展開のプロセスを強化する。

c) 地方及び都市における社会奉仕の強化及び改善

- * 社会奉仕に関して、委員会の組織化及び監督の強化を引き続き行う。
- * 社会奉仕の規約の印刷、適用をする。
- * 教師と実習指導者、社会奉仕の協力体制を特に弱い地域（メトロポリタン、第2保健地区、第4保健地区であるが、自治大学、看護補助員養成校その他の地区も支援する。）で強化する。
- * 卒業生の業務強化のために、教師と実習指導者の集会を引き続き行う。
- * 自治大学の新たなカリキュラムへの社会奉仕の導入を支援する。
- * 社会奉仕の手引書を改善する。

d) 教員の看護教育技術の改善

- * 保健調査のセミナーを受講した教師が看護研究の新しい核を形成するであろうと期待される。
- * プライマリーヘルスケア分野の調査結果をシステム化する。
- * 公衆衛生分野での授業計画及びセクター間の連携についてセミナーを行う。
- * 教育-学習プロセスの展開において教師の作成したさまざまな教材の利用を強化する。

e) 教科書作成技術の向上

- * 「国の現状」及び「母子看護」の教科書を作成、構成、印刷する。
- * 「成人・老人看護」の教科書は原稿（案）を完成させる。
- * 必要に応じてマニュアルを作成する。
- * セミナー毎に講演集を作成する。

2. ホンデュラス側の取るべき措置

- 2.1 プロジェクトの実施予算を確保する。
- 2.2 教科書の作成を促進させるために監督を強化し、各校(看護補助員養成校)に増員する。
- 2.3 問題のある看護補助員養成校の運営管理を強化する。

IV. 評価方法

プロジェクトの終了時評価において以下の点が考慮される。

- a) 1994年3月の調査団時に合意されたTSIの各目的毎の活動計画の実施状況。
- b) 毎年の活動計画とその実施状況。

c) 保健省、大学の政策的レベル及びプロジェクトの恩恵を受けている技術者レベルで調査を実施する。

調査の結果に基づいて必要な手段が取られる。

更に、ホンデュラスの保健医療政策におけるプロジェクトの位置付けを知るために、以下の点についても評価することが、調査団より勧められた。

- a) 看護教育の制度に関し、ホンデュラス政府により新しく導入されたプログラム
- b) 理論及び技術面における教師のレベルの向上
- c) その他プロジェクトが実施されたことによる変化
- d) 帰国研修員の定着率及び研修の活用状況
- e) 供与機材の使用状況及び保守管理システム
- f) 日本側が引き上げた後予想される問題点

V. ホンデュラス政府から日本政府への要望

T S Iの範囲内で以下の要望事項があった。

- a) 学生が実習を行う病院への実習用看護機材の供与
- b) 1995年度の研修員枠の増員
- c) 教育施設の改善

1995年に行われる終了時評価においてプロジェクトの延長を検討することをホンデュラス側が提案した。

2. 総括報告

本調査団は、1990年9月1日からの技術協力プロジェクトの開始後、5年間のプロジェクト期間のうち3年半を経過した時期にホンデュラスを訪問し、巡回指導調査を行った。

ホンデュラスに滞在した7日間に両国のプロジェクト関係者、プロジェクト実施施設等に関する視察・協議を行い、プロジェクトの現状分析、実施予定業務の達成状況、プロジェクト期間内に到達すべき目標等について両国間で確認し、議事録（ミニッツ）を英語・西語の両国語で作成し、調査団長及び厚生省副大臣により署名がなされた。

プロジェクトの現状について、今回の調査目的に対応して日本側専門家及びホンデュラス側カウンターパートから両者の協議に基づいて作成された基礎資料が提示された。

この基礎資料及び専門家からのヒアリング等により、R/D（討議議事録—Record of Discussion）におけるT S I（暫定実施計画）の主要な事項について、それぞれの達成の現状（達成度）、プロジェクト期間内に到達すべき目標について明らかにし、別紙一覧表（T S I主要事項）を作成した。

プロジェクト経過の過去3年半について今回の調査結果を踏まえて振り返ってみると、いくつかの変化をみることができる。

(1) 看護補助員養成校・国立自治大学看護学部の整備の進展

供与機材・応急対策費による学校内整備が進むにつれて看護教育のための環境整備は著しく向上した。昨年よりも今年というように、機材を学内実習に活用しやすい場所に収納・配置し、保管にも注意を払っている。学校によっては実習室を別に確保して機材を配置しているところもある。各機材の使い方については写真を数多く掲載した使用説明書が作成されており、教員による教授方法の改善に役立っている。

(2) 看護補助員養成校・国立自治大学看護学部の教材作成技術及び教育技術の向上

視聴覚教材のうち、OHPは原稿の作成を始めとしてその使用方法に至るまで、ほぼ完全に習熟している。スライド作成やビデオ作成については、研修員として研修後に帰国したカウンターパートの教員が中心になって技術を移転中である。専門家との協力により、すでに10本のビデオができており、またそれらは実際の授業に使われている。

(3) 看護教育内容改善のための調査研究への関心の高さとその試み

国立自治大学看護学部の教員の中には、カリキュラムや社会奉仕等の改善のために調査研究を実施したり、これからも更に必要に応じて分野を拡げて試みていこうとする意欲のある人材が増え始めている。

帰国したカウンターパートや専門家とのセミナー、講習会等を通して教員が触発されたりすることから、日本での研修を希望するものが増加しているということである。

これら3年半の活動成果を反映して、ホンデュラス側の本プロジェクトに対する評価は非常に高い。保健医療サービス向上のために看護補助員や看護婦の果たす役割は大きいことから、

これら看護職の社会的地位の向上を図りたい、一般の人々の健康や病気に対する認識を高めたい、という願望は大きく、これらのことを含めてプロジェクト期間中に更に看護教育や看護対策の前進を図りたいという意図が強いと見受けられた。しかし、当国の財政困難な状況からプロジェクトへの財政負担の増額は望めないような状況である。特に1993年には、ハリケーンや大水害に見舞われ、そのために多くの予算を使っているということで、厚生省予算もその影響を受けている。このような状況において、本プロジェクトに寄せる期待は大きく、プロジェクト継続希望意向も示された。

T S I 主要事項 (1 / 2)

看護補助員養成校

項 目	目 標	達 成 度	残された課題と授業の到達目標
1. カリキュラムの改善 (T S I 2, 1)	現行カリキュラムの改善に対するアドバイスを行う。	カリキュラムにおける概念枠組みについてその必要性・考え方についてアドバイスを行った。 カリキュラムの年間計画の重要性を明示した。	プロジェクト終了後に、カリキュラムの改善案を提示する
2. 看護教育方法の改善 (T S I 3, 4, 1)	授業計画、評価方法の向上を図る。 効果的な学習のための教育技術向上及び教材作成を行う	一部の教師が授業計画の立案が可能となった。 教育の評価方法が改善された。 臨地実習(病院、保健所、コミュニティー)の指導方法についてアドバイスを行った。 教材の特性及び使用方法を理解した。 学内実習を実施した。 専門家の援助を得ながら教材を作成できるようになった。	C / P の強化を通して、授業計画の立案ができるようになる。 実習指導要領を完成する。(母性看護、外科看護、管理実習) 実習の計画・実施・評価の方法を明確にする。 自主的に教材を作成できる。 適切な教材を選択・使用できる。 効果的な授業を立案・実施できる。 学内実習の方法が改善・向上する。
3. 教科書作成技術の向上 (T S I 5)	母子看護、成人看護、専門基礎看護の教科書を作成する。 専門基礎科目：国の現状、疫学、社会参加、食料栄養保障、環境衛生の5科目 必要度の高い順にサブテキストを作成する。 講演を記録としてまとめる	作成中である。 以下4つのサブテキストを作成した。 『小児の成長と発達』『小児の抑制』『正常分娩』『教師用指導マニュアル』 セミナー講演集を作成した。(計7冊)	『母子看護』については印刷製本を行い完成させる。 『成人看護』は原案作成まで行う。 専門基礎科目については『国の現状』を印刷製本する。その他の科目については印刷製本ができるよう努力する。 必要に応じ作成する。 例えば『滅菌操作』『呼吸管理』『基礎看護技術』『創処置』等 セミナー開催毎に作成する。(予定4冊)

T S I 主要事項 (2 / 2)

自治大学看護学部

項 目	目 標	運 成 度	残された課題と今後の到達目標
1. カリキュラムの改善 (T S I 2, 1)	現行カリキュラムの改善に対するアドバイスを行う。	新カリキュラムにおける概念枠組みについてその必要性、考え方についてアドバイスを行った。 新カリキュラムが2月より適用された。	引き続きカリキュラム改善のアドバイスをを行う。
2. 看護教育方法の改善 (T S I 3, 4, 1)	授業計画、評価方法の改善を図る。 効果的な学習のための教育技術向上及び教材作成を行う。 看護研究について推進グループの形成と調査研究実施のための支援を行う。	一部の教師が授業計画立案が可能になった 臨地実習(病院、保健所、コミュニティ)の指導方法についてアドバイスを行った。 教材の特性及び使用方法を理解した。 専門家の援助を得ながら教材を作成できるようになった。 3回のセミナーを通して推進グループが形成された。	授業計画の作成方法を改善・向上させる。 実習の計画・実施・評価の方法を明確にする。 自主的に教材を作成できる。 適切な教材を選択・使用できる。 教材を使用して授業を立案・実施できるようになる。 4～5名が研究を計画・実施し、報告書をまとめるようになる。
3. 教科書作成技術の向上 (T S I 5)	(自治大学看護学部では目標に含まれない) 講演を記録としてまとめる。	セミナー講演集を作成した。(計7冊)	セミナー開催毎に作成する。(予定4冊)
4. 社会奉仕の改善 (T S I 1)	教員・現場・学生が社会奉仕の教育的位置づけを認識し、社会奉仕の内容改善を図れる。	社会奉仕について実態調査を行った。 規約・組織の整備を図った。 指導者間の連携と協働について改善を図った。 教師・現場・学生の3者協議を行った。 指導・教育内容の改善を図った。	「社会奉仕に関する研究報告書」を作成する。 規約を印刷物としてまとめ、必要に応じて改善する。 協働体制の十分な地域を強化する。(メトロ、第2、4保健地域) 引続き教師・現場・学生の三者協議を行う。 他の医療保健関係職種との経験交流を行う。 カリキュラムの中に社会奉仕の内容を組み入れる。 「社会奉仕手引書」の印刷、及び引き続き内容改善を図る。 社会奉仕の評価方法に関する検討を行う。

3. 分野別報告（現状と問題点）

3-1 看護教育の理論及び方法の改善

プロジェクト発足当時の看護補助員養成校においては、教授計画に基づいた授業展開はなされておらず、授業内容については教師の能力差が大であった。また、教材の工夫も全くされておらず、板書のみ使用されていた。また、臨地実習においては、学生は直接臨床やコミュニティに出かけその場で看護技術を習得するという形態がとられ、臨地実習前の学内実習は行われていなかった。以上の専門家の現状分析に基づき、下記の如く活動が実施された。

なお、自治大学に対する初期の活動は主にセミナー開催、カリキュラムの助言である。

(1) 看護教育原理等の概念分野

- ・看護教育原理セミナー（伊藤専門家）
テーマ「2000年に向けての将来の看護婦像」
指導法の知識と技術を移転するための基礎的理論の教授
- ・看護教育評価セミナー（寺田専門家）
- ・PHCと看護研究セミナー（松田専門家）
4回の計画のうち3回実施済
- ・「教授・学習活動の実際」セミナー
授業計画の作成と実施について教授・成人看護外科分野
- ・単元「家族計画」の教授内容検討会
授業展開に関する助言

(2) 学内実習分野

- ・「学内実習指導方法」の指導セミナー
学内実習指導内容（学習目標、技術評価を含む）の検討
- ・基礎看護技術セミナー
 - 「体温測定」
 - 「体重測定」
 - 「手洗い」
 - 「無菌操作」
 - 「与薬」
- ・応用看護技術セミナー
 - 「小児の成長と発達」
 - 「抑制」
 - 「救急蘇生」
- ・集中学内実習の企画及び実施（上記の基礎看護技術の項目を実施）

(3) 教育技法の向上につながる活動

- ・マネキン及びシュミレーターの使用講習会
(皮下注射、筋肉注射、静脈注射、導尿、浣腸等)
- ・分娩ファントム使用講習会
- ・ネブライザー使用講習会
- ・レサシアンネ使用講習会

(4) 臨地実習分野

- ・実習指導日課表の学習項目の見直し、実習時間の検討（母子看護）
- ・実習ノート・実習マニュアル作成についての助言
- ・実習評価表作成についての助言
- ・臨床実習指導者会議開催
看護補助員養成校で初めて実施された。主に母子看護について検討

(5) 評価

- ・看護教育評価セミナー（前述）
- ・サンペドロスーラ看護補助員養成校において教育の現状を評価改善し、総合評価のための基準が立案された。

(6) 研究

- ・PHCと看護研究セミナー（前述）

これらの(1)~(6)のプロジェクトの活動の結果、教員による、授業計画の立案が可能となった。臨時実習指導方法の計画・実施・評価については専門家のアドバイスを受け検討中である。実習指導マニュアルの作成については検討中であり一部原案作成済みである。教育評価は不備ながら実施されるようになり、その検討結果を次年度の教育改善に役立てるようになった。（附属資料②）

3-2 看護教育カリキュラムの改善

プロジェクトの基本姿勢として、カリキュラムの作成や変更には直接触れず、ホンデュラス側より要望があった場合、アドバイスするという形がとられた。カリキュラムの運用面での改善点は提言としてまとめたり、カリキュラム本体への働きかけとして下記のセミナーが開催された。

- (1) 看護カリキュラムの展開セミナー
- (2) カリキュラムデザインと教授計画セミナー
- (3) 「総合カリキュラムの展開における教授計画の強化」について
- (4) 看護補助員教育カリキュラムの分析評価セミナー
- (5) その他研究

カリキュラム改善のための「看護補助員養成校卒業生の技術自己評価及び職業意識調査」
看護補助員養成校においては、カリキュラムの概念枠組みの導入について専門家がアドバイスし

た。新カリキュラムの展開については今後も継続的にアドバイスを行う予定である。

自治大学においては、新カリキュラムの導入に当たり専門家によるセミナーを通して理論的裏付けがなされた。また今後の活動として研究を導入した教育プロセスの計画が検討されている。(附属資料③～⑦)

3-3 社会奉仕活動の強化・改善

(1) 社会奉仕活動改善への取り組み

ホンデュラスの看護教育制度においては、1年間の社会奉仕期間が必ず、義務づけられている(附属資料⑧)。看護補助員の場合は、養成校での10か月の教育終了後に、看護婦の場合は、自治大学看護学科での3年の教育終了後にそれぞれ奉仕活動に従事して初めて資格を得ることができる。

その意味において、社会奉仕活動は単なる業務というよりも実践教育、つまり地方及び都市周辺における地域実習教育の場として大きなウエイトを占めるものである。

ちなみに、奉仕活動の場は、国から指定されるシステムとなっており、地域や医療施設は学生を受入れることに非常に積極的であり、地域の場合は住込みの生活になることも多い。

このため、本プロジェクトにおいては、特に大学側において、本テーマが取り上げられ、「教員・現場・学生の三者が社会奉仕の教育的意味と位置づけを認識し、より良い実施が行われる」ことを目指して大学側とホンデュラス及び我が国関係者の3年半にわたる改善の努力がなされてきた。

折りから1994年には、看護大学の教育制度が改正されることとなり、従来の3年制の看護学科と1年の学士課程を一つにして、看護婦の要請は全て4年の学士課程で行われることとなった。

当然のことながら教育の中身も改善されることとなり、「統合カリキュラム」として新しくスタートすることになった。

これに伴い社会奉仕の教育的意義は更に重視されるようになり、4年の大学教育に1年の奉仕活動を加えた5年間で資格が得られるシステムとなった。

今回、短い調査日程であったが、学校への視察、両国の専門家、コーディネーターからの情報収集や資料の分析・協議を重ねることによりプロジェクト発足以降の活動状況と今後の一年半に向けて残された課題の概要を確認することができた。

個々の具体的な内容について、整理すると概ね次のようになる。

(2) 目標の具体的な達成状況と残された課題

1) 実態の把握について

社会奉仕を実施している学生と現場のスタッフに対してアンケート調査を実施し、社会奉仕の活動の中で指導や援助すべき内容、教育カリキュラム上の問題や現状を把握し、今後の取り組むべき課題を明らかにした。

2) 担当教師の確保について

各大学に、社会奉仕を担当する教師が任命された。

3) 規約・組織等の整備について

- ① 地方及び国レベルでの社会奉仕委員会の組織を強化した。
- ② 社会奉仕規約の見直し作業を行った。

《今後の課題》

- ① 引き続き委員会の組織を強化し、指導監督の強化を図る。
- ② 規約を印刷し、その適用を図る。

4) 指導者との連携・協力体制の推進について

- ① 教師と実習指導者が協力して管理・監督・援助を行い、学生が自主的に意見交換会を開き、それぞれの経験を共有するようになった。
- ② メキシコへ出張し、実施されている社会奉仕システムの中でホンデュラスに適用できるものを検討した。

《今後の課題》

学生の奉仕活動においては、実習受入れ先の指導者の影響が大きく、指導者は重要な役割を担うことになる。

そのため、今後更に強化する点として次のことが挙げられた。

- ① メトロポリタン、第二保健地区、第四保健地区のように、まだ協力体制の弱い地域への働きかけを強化する。
- ② 大学と地域の間で、また各実習指導者間で集会を開き、学生や他の保健関連職種を含めた意見交換会を行うことにより、指導体制の強化とシステム化を図る。

5) 指導・教育内容の改善について

① カリキュラム上の工夫

カリキュラムの中に学生へのオリエンテーションを組み込んだり、社会奉仕活動の中に一部研究的取り組みを導入した。併せて活動内容の評価方法を検討し、評価基準を作成した。

《今後の課題》

看護教育制度の改正、新カリキュラムの導入により、大学教育の中での社会奉仕に対する正式な位置づけが急務となっており、次のような課題が挙げられた。

- a) 自治大学の新カリキュラムの中に社会奉仕の内容を加え、4年次終了までに、学生が社会奉仕について十分理解できるようにする。
- b) 社会奉仕活動の自己研修の中で研究的取り組みを定着させ、学生の問題解決能力を高めるために、研究報告書や研究レポートのガイドブックを作成する。
- c) 奉仕活動のねらいは、大学で学習した知識・技術に更に経験を積み重ねることによ

てその学習を深めるものである。従って、活動の評価方法・評価票の改善においては、活動の学習的・教育的側面、つまり学習目標を明確にして検討する必要がある。

d) 最終的には、教師が、学生から提出される社会奉仕の報告書を認定して、初めて卒業できるシステムを定着させる。

② 指導教材の工夫

新しい卒業生のために社会奉仕の紹介ビデオや社会奉仕のメモリー、手引書を作成した。

《今後の課題》

大学教育課程の中で社会奉仕の有効な活用を図るために、引き続きメモリーの改訂や、ビデオの検討、社会奉仕手引書の改善・印刷等を行う。

6) その他

この活動は大学を対象に行われているものであるが、看護補助員養成校にも次のような改善の波乃効果がみられた。

① 社会奉仕の期間は養成期間に含まれているにもかかわらず、従来はこれに対する教育的認識が著しく低い状態にあった。しかし大学の改善が進むにつれて、養成校の認識も高まってきた。

② 現場や臨床サイド指導者が大学と同一人である場合が多く、このために養成校の生徒に対する教育も自然に改善されることとなった。

3-4 看護教育技術の改善（教材作成技術）

看護補助員養成校3校及び自治大学3校に下記の教材作成のための実物投影機、印刷機、ビデオ編集機等の教材作成に必要な機材が供与され、看護教育の取扱い及び作成についての研修会が実施された。

その結果、特にOHPを使つての教材作成は十分に技術移転がされている。講習を受けたカウンターパートより新教員への技術移転が可能なまでになっている。

ビデオについては、帰国研修員を核としたビデオ教材作成のグループが組織されており、専門家の援助を受けて作成可能なレベルになっている。

現在までに作成された教材は以下の通りである。

(1) OHP

1) セミナー

OHP教材開発セミナー

OHP教材開発補強講習会

2) 成果品

多数

(2) スライド

1) セミナー

一眼レフカメラの使用方法についての講習会

2) 成果品

「筋肉注射手技」

「点滴静脈内注射」

「手袋装着法」

「コレラ予防」

「身長・体重測定」

(3) ビデオ

1) 社会奉仕オリエンテーションビデオ

各大学、各保健地域に配布し、オリエンテーション用に使用

2) CENARHカリキュラム展開についてのオリエンテーションビデオ

CENARHの実習展開、施設のオリエンテーション、新入生に対するオリエンテーションに使用

3) 看護婦社会背景調査のオリエンテーションビデオ

各保健地域にて使用

4) 「滅菌手袋の装着」1994年度に使用

5) 「血圧測定」1994年度に使用

6) 「筋肉注射」1994年度に使用

7) 「小児の成長と発達」1994年度に使用

8) 「乳児の脳の発達と反射」1994年度に使用

9) 大学新カリキュラム紹介ビデオ

新入生のオリエンテーション及び教師に対する継続教育に使用予定

10) 「無菌操作」

CENARHで使用中

3-5 看護教育用教科書の開発及び改善

(1) 教科書（看護補助員養成校）

教科書作成の活動は遅れており、現時点（調査団派遣時）では完成品がない。しかしながら、現在までに看護補助員養成校3校による教科書作成委員会が組織され、作成内容の検討会を開催し、教科書の作成過程についての討議が行われた。ここで、各学校の分担が以下の通り決められ、現在専門家のアドバイスのもとそれぞれの分野において原稿を作成している。また、教科書作成のための3日間の初期研修が実施された。

この活動の遅れは、カリキュラムの変更があったこと、臨時看護補助員養成校の開校による教師の不足、教科書作成の経験不足等が原因であると思われるが、この遅れについてはホンデュラス側も十分に承知しており、活動の促進のため監督を強化し、各校に増員をすることがミニッツに記載された。

最終的には、教科書は「母子看護」、「成人看護」及び専門基礎科目5科目「国の現状」、「疫学」、「社会参加」、「食料栄養保障」、「環境衛生」についてそれぞれ作成する予定である。プロジェクト期間内に「母子看護」及び「国の現状」については印刷・製本までを、その他は原案作成までを目標として設定したが、ホンデュラス側の財政状況からプロジェクト期間内にすべて印刷製本まで終了させることが望ましい。

- ・ CENARH (テグシガルバ) 専門基礎5科目担当

「国の現状」は印刷・製本までを目標とする。

「疫学」、「社会参加」、「食料栄養保障」、「環境衛生」は原案作成を目標とする。

- ・ CENARH-NORTE (サンペドロスーラ) 母子看護分野担当

印刷・製本までを目標とする。

- ・ CENARH-SUR (Cholteca) 成人分野担当

原案の作成を目標とする。

(2) サブテキストの作成について

看護教育機材の作成のためのマニュアルの他、以下のサブテキストがすでに作成済である。その他にも必要に応じて作成予定である。

成果品

学生用看護手順

「小児の成長と発達」

「小児の抑制」

「身体計測」

「正常分娩の看護」

教員用指導マニュアル

「看護補助員養成校教員のための指導マニュアル」

(3) 講演集

講演集はセミナー開催毎に記録として作成しており、セミナーに参加できなかった教師にも配布している。今後も4冊を予定している。

成果品

「看護教育カリキュラムの展開について」－伊藤専門家のセミナー

「看護教育評価」－寺田専門家

「『ケーススタディ』サバナグランデ保健所の状況」－松田専門家のセミナー

「カリキュラムデザインと教授計画」－小川専門家のセミナー

「カリキュラムの一般概念」－小川専門家のセミナー

「教材開発」－古藤専門家のセミナー

(4) 自治大学における改訂テキストの検討

自治大学（基礎看護技術分野）においては1970年代に作成されたものを、現在も使用している。専門家と共に改訂すべき項目を選出し改訂テキスト作成について検討中である。

3-6 研修員の受入れと今後の研修計画

(1) 我が国における研修員受入の概要

本プロジェクトが開始されて3年6か月の間にすでに11人の研修員を我が国に受入れており、厚生省の看護研修研究センターが研修員の受入れ窓口となり研修プログラムの立案から直接的な指導まで、研修計画全体の運営を担当してきた。（4. 協力別実績及び計画参照）

研修計画の立案においては、日本側におけるフィールド等の制約もあるが、毎年可能な限り研修員一人ひとりの研修ニーズを反映させるための調整と努力をしてきた。特に複数の研修員を受入れる場合には、個人的ニーズとグループ全体として必要な研修課題の調和を図り、個人プログラムとグループ行動プログラムの組み合わせにより短期間により効率的で効果的な研修となるように配慮した。中でも、日本における公衆衛生や地域ぐるみの総合的な保健医療活動については、1～2年前から個別カリキュラムとは別に、全研修生の必須プログラムとして立案し我が国における医療と看護教育について広く基本的理解を深めてもらうような工夫をしてきた。具体的には、保健所の対人保健サービスに予防的対物保健の分野である環境衛生を加えたり、村ぐるみ、町ぐるみの保健医療活動として沢内村の他に新しく広島県の公立みつぎ総合病院を加え、また研究や公衆衛生看護教育についても共通に学習する場面を設けている。

次に研修の成果と今後の課題について整理する。

(2) ホンデュラスにおける研修員の派遣とその評価・要望

1) 研修員の全体的状況

両国専門家の協議資料により、1990年から1995年までの研修員の状況と今後の要望についてまとめると4-2 研修員受入れ、のようになる。

① 今までに研修を終了した11名については、自治大学の学科長、教員、看護補助員養成校の校長、コーディネーターであり、研修科目は、そのほとんどが、母子看護、成人看護、外科看護のような看護教育の各論とカリキュラムに関するものである。公衆衛生に関するものは少ない。

② 研修の活用成果として、次の6点が挙げられた。

研修員の役割としては

a) 専門家の活動の際のコーディネーターとしての役割を担っている。

- b) ビデオ教材開発における索引力となっている。
 - c) 新しく日本へ行く研修員へのオリエンテーションをする人材となっている。
- また、その結果として、
- d) 日本側チームとホンデュラス側チームのつながりが強化された。
 - e) テグシガルバ及びサンペドロスーラの看護補助員校では、実習計画を立てる場合に日本で研修した内容が盛り込まれた。
 - f) 実習室の改善が促進された。

- ③ 今後の研修への要望については、1994年は3名であるが、1995年はプロジェクト最後の年になるという理由から、R/Dに記載された3名の研修員枠に対して1名を増員した4名の要望があり、研修員の派遣制度がホンデュラスの看護界にとって大きな収穫を与えてくれたと高い評価がみられた。

本調査の最後に行われた自治大学・養成校の施設長会議においても、全施設長から日本への研修について高い期待が述べられた。

2) 学校の視察・研修員面談の状況

《テグシガルバ看護補助員養成校視察、

コーディネーター（アルバ・ルス・コジャルト：1994年研修予定）の説明》

日本における沢内村での研修内容は、ホンデュラスにおけるこれからの活動のモデルになるすばらしい活動である。

村と地域が一つになった村ぐるみ、地域ぐるみの総合的な保健活動の展開から非常に多くのものを学ぶことが出来た。

今後、沢内村から公衆衛生分野の派遣専門家として、住民保健の経験の豊富な看護専門家派遣を要望し、本プロジェクトを発展させていきたい。

看護教育だけでなく村ぐるみ、町ぐるみの活動が重要である。

《サンペドロ・スーラ北部看護補助員養成校視察、

校長（ソニア・デ・ブエソ：1993年研修員）の説明》

日本での研修効果には著しいものがある。特に沢内村における厚生サービスの総合的な展開システムは、当国のモデルとなるものである。社会参加の部分はカリキュラムの中に取り入れることもできる。

また、日本での経験が授業用ビデオの作成に大いに役立っている。

《自治大学サンペドロ・スーラ校視察・教官

（テッサ・デ・イダルゴ：1993年研修生）によるビデオ上映》

学生の地域実習の場面が美しい映像で収録されており、日本での研修がビデオ作成技術の中に定着していることを実感した。

《自治大学・コーディネーター（ルールデス・アマドール：1993年研修生）と面談》

日本で受けた研修の中では、沢内村の活動や、保健所の活動をこれからの公衆衛生の教育の中に生かしていきたい。

《1994年研修予定者と面談時の研修要望》

（アルバ・ルス）、（アルフォン・シーナ）：カリキュラム、看護教員養成、公衆衛生看護、看護教育における看護研究。

（リタ・マルティネス：保健調査、看護研究、カリキュラム・教育制度。

時期的には、あまり寒くならない時期でクリスマスの前に終了するのが良い。

(3) 今後の研修プログラムにおいて考慮すべき看護教育の状況

1) 本プロジェクトにおいて残された課題（施設長会議の意見より抜粋）

① 看護補助員養成校の場合

《今までに達成できた内容》

- a) カリキュラムの改善 b) 教育技術・実習方法の改善 c) 教材・マニュアルの作成
- d) 主に病院との連携の強化 e) 実習室・機材の整備

《残された課題》

- a) 病院・地域・市町村の連携強化と村ぐるみ、町ぐるみの保健活動 b) 調査研究
- c) 教科書の作成 d) 教育環境の整備

② 自治大学の場合

《今までに達成できた内容》

- a) カリキュラムの開発 b) 社会奉仕活動の充実と調査活動
- c) 視聴覚機材・設備の調整 d) 大学・養成所・病院の連携

《残された課題》

- a) 新カリキュラムの展開方式の確立
- b) 社会奉仕活動の強化、特に学生・教師・コミュニティが一体となった活動の強化
- c) 図書室の整備

2) 自治大学の教育制度とカリキュラムの改正

1994年より自治大学の制度が改正され、看護婦の養成は、3年課程が廃止となり4年課程の学士看護婦養成一本に絞られることは、先の社会奉仕の項で述べた。

これと同時にカリキュラムも新しくなり、40年目の改正カリキュラムとして新カリキュラムがスタートすることになった。

新カリキュラムは、「統合カリキュラム」と呼ばれ、主に次のような特徴を備えているが、まだ概念枠組を完成した段階であり、カリキュラムの具体的展開については目下検討中である。

- ① 住民への保健サービス、及び企業社会・エイズ問題等を含めた社会的ニーズへの対応。
- ② 理論と実習、研究と業務、各看護技術等の統合。

③ 家庭と社会の保健、社会参加、社会奉仕活動の重視。

(4) 残された課題と今後の研修計画

公衆衛生の改善により乳幼児死亡率の低下を図ろうとする当国の保健政策では、予防医学が優先され、その中でも特に基礎衛生と免疫の拡大、衛生教育の強化に重点が置かれている。

これらの施策を展開するための医療システムとして、地域住民に最も近い医療施設が看護補助員だけのいる保健所（CESAR）で全国に522か所ある。（附属資料⑨）

このための看護の教育カリキュラムは大きく二つに分けられ、その一つは看護婦になるためのものであり、他の一つは看護補助員になるためのものである。（附属資料③～⑦）

看護婦については、1994年より全ての教育が4年の学士課程となるため、これからの新カリキュラムを展開するに当たっては、調査・研究の科目に加えて、社会奉仕活動を含めた地域における村ぐるみ、町ぐるみの総合的な保健医療活動やプライマリーヘルスケアシステムを展開する内容が一層重視されている。

また看護補助員については、10か月の短い養成期間の中で、効果的な教授方法や講義と実習のバランス、地域実習と保健所、病院実習の関係、母子看護と成人看護の学科進捗等その授業展開に種々の検討が加えられてきた。（附属資料⑩）

今後更に町ぐるみ、村ぐるみの保健活動と保健所・地域社会における教育展開方法の開発が求められている。

これに対して、ホンデュラスでは、公衆衛生分野の専門家の派遣と日本への研修に大きな期待を寄せていることが確認できた。

これらは、日本の公衆衛生や地域保健活動そのものであり、また公衆衛生看護活動の展開と教育そのものでもある。

もちろん看護教育制度の基盤が異なるため、特に看護補助員については、基礎学歴が中学校の卒業であり、日本の准看護婦に比べても養成期間が短いため、日本の教育がそのまま当てはまるとは考えられないが参考になる点は多くあると思われる。

今までの研修においても留意してきたところであるが、今後のプログラムにおいては、教育プロセスの評価及び保健調査等の研究手法に加えてこの点を更に重視していかねばならないと考えられる。

(5) おわりに

今回の調査団は、短い日程であったが、今までの研修が大変有効に役立っていること、今後更に高い研修ニーズがあることを現地を視察し、関係者の声を聞くことにより直接確認することができた。

本プロジェクトの目的は当国の公衆衛生改善のために看護教育の技術を移転することである。その意味において本プロジェクトの活動は、現在中間評価の段階ではあるが、初期の目標を一応達成しつつあると思われる。

しかし、その背後には厚生副大臣の話にもあった通り、水と食料の問題、人々の基礎教育の貧しさが国の最重要課題となっており、看護教育の問題も最終的には国全体の社会開発の中で考えていかねばならない課題であると思われる。

4. 協力方式別実績及び計画

4-1 専門家派遣

(1) 長期専門家

氏名	指導科目	派遣期間	赴任時現職
九筈 逸郎	業務調整	90.09.17~94.09.16	無職（プロジェクト終了時まで延長予定）
菅原 能子	リーダー	90.10.01~94.09.30	無職（プロジェクト終了時まで延長予定）
大嶋 正子	カリキュラム	90.10.01~92.09.31	無職
朝倉 正子	外科看護	90.11.29~91.11.28	聖マリア学院短期大学看護学科助手
大島 英子	小児看護	92.01.09~94.01.08	青年海外協力協会
林 淳子	成人看護	92.04.23~94.04.22	無職
村上友美子	外科看護	92.05.14~94.05.13	無職（一年延長予定）
森 淑江	カリキュラム	92.08.03~94.08.02	無職
富島由紀子	母性看護	93.05.17~95.05.16	無職
今後の派遣計画（平成6年度）			
小川 正子	カリキュラム	94.08. ~94.08.31	（旧姓 大嶋）

(2) 短期専門家

氏名	指導科目	派遣期間	赴任時現職
小川 穂積	建築	91.02.23~91.03.19	㈱梓設計海外事務室次長
伊藤 暁子	教育原論	91.06.17~91.07.01	木村看護教育復興財団常任理事
松田 正己	保健調査	91.11.11~91.12.16	（財）結核予防会結核研究所 国際協力部国際研修科研究員
寺田 眞広	看護教育評価	92.02.12~92.03.13	群馬大学医療技術短期大学助教授
小川 穂積	建築	92.07.01~92.07.16	㈱梓設計海外事務室次長
古藤 泰弘	教材開発	92.08.02~92.08.23	川村学園女子大学教育学部情報教育学科長・教授
松田 正己	保健調査	92.11.10~91.12.19	（財）結核予防会結核研究所 国際協力部国際研修科長
小川 正子	カリキュラム	93.05.24~93.07.21	無職（旧姓 大嶋）
日野多佳子	栄養指導	93.07.22~93.12.25	無職
小川 正子	カリキュラム	93.09.30~93.10.27	無職（旧姓 大嶋）

松田 正己	保健調査	93.12.02~93.12.21	(財)結核予防会結核研究所 国際協力部国際研修科長
今後の派遣計画(平成6年度)			
山岸 春江	公衆衛生	94.08.07~94.08.27	千葉大学看護学部助教授
宮田 克子	公衆衛生	94.08.07~94.08.27	滋賀県立総合保健専門学校 保健学科専任教員
矢野 正子	公衆衛生行政	94.08. ~94.09.	東京大学医学部 健康科学・看護学科教授
松田 正己	保健調査	94.11. ~94.12.	(財)結核予防会結核研究所 国際協力部国際研修科長
伊藤 暁子	現任教育法	95.03. ~95.03.	木村看護教育復興財団常任理事

4-2 研修員受入れ

氏名、受入れ時現職	研修科目	受入期間	主な受入機関
レナト ルンスエラ 厚生省・プロジェクト外長	看護行政	91.03.27~91.04.14	厚生省看護研修研究センター 聖マリア学院短期大学 (財)九州産業衛生協会
リリアン メーア 厚生省・プロジェクトコーディネーター	看護計画	91.07.15~91.08.06	厚生省看護研修研究センター 厚生連佐久総合病院
ミリアン チャン CENARH・校長	学校経営	91.07.15~91.12.13	日本看護協会 厚生省看護研修研究センター 厚生連佐久総合病院
ロサ マリア デ バリアス CENARH・教員	母子看護	92.01.27~92.06.28	埼玉県立常磐女子高校 厚生省看護研修研究センター 厚生連佐久総合病院 国立岡山病院
イニア アルカンテラ CENARH-SUR・教員	母子看護	92.09.21~93.02.26	厚生省看護研修研究センター 国立公衆衛生院
イバ デ カスタニエータ CURLA・学科長	公衆衛生	92.09.21~93.02.26	国民健康保険沢内病院 厚生省看護研修研究センター 国立公衆衛生院
ロサリオ バジャレス UNAH・教員	外科看護	92.09.21~92.06.30	国民健康保険沢内病院 厚生省看護研修研究センター 国立公衆衛生院
セシリア フロレス CENARH-NORTE・教員	カリキュラム	92.09.21~92.07.26	東海大学医学部 厚生省看護研修研究センター 国立公衆衛生院 東海大学医学部
テッサ デ イグル CURN・教員	成人看護	93.08.31~93.11.06	厚生省看護研修研究センター 順天堂大学付属浦安病院
ルルデス アマドール UNAH・コーディネーター	公衆衛生	93.08.31~93.12.22	千葉大学看護学部 厚生省看護研修研究センター 順天堂大学付属浦安病院
ソニア デ ブイヨ CERARH-NORTE・校長	カリキュラム	93.08.31~93.12.22	千葉大学看護学部 厚生省看護研修研究センター 順天堂大学付属浦安病院 千葉大学看護学部
今後の派遣計画（平成6年度）			
リク マルティネス CURN・教員	健康調査	94.09 ~	厚生省看護研修研究センター
アルバ ルス コジャルト CENARH・コーディネーター	カリキュラム	94.09 ~	厚生省看護研修研究センター
アリフォンシナ モントーヤ UNAH・教員	カリキュラム	94.09 ~	厚生省看護研修研究センター
ネハ マディーナ 厚生省・プロジェクト外長	保健行政		厚生省看護研修研究センター
リディア グラフ UNAH・教員	I C U		厚生省看護研修研究センター
ゾーリバ CURLA・教員			厚生省看護研修研究センター
マルタ マリア CURN・学科長			厚生省看護研修研究センター

4-3 機材供与

(160万円以上の機材)

供与年度	番 号	機材名 (メーカー名・型式)	数量	利用 (保管) 場所
平成2年	02-016	車両 (トヨタ ランドクルーザー, HZT80L-GNMNS)	1	プロジェクト事務所
	02-081	車両 (トヨタ ランドクルーザー, HZT80L-GNMNS)	1	プロジェクト事務所
	02-331	車両 (トヨタ ランドクルーザー, HZT80L-GNMNS)	1	厚生省人的資源局
平成3年	03-095	車両 (トヨタ ランドクルーザー,)	1	大学テグシガルパ校
平成4年	04-003	車両 (トヨタ ピックアップ, LN106L-PRMRS)	1	プロジェクト事務所
	04-119	人口呼吸器回路 (フクダ・surbo-900)	1	プロジェクト事務所
	04-120	心電図モニター (フクダ・D8-3300)	1	プロジェクト事務所

(10万円以上160万円未満の機材)

供与年度	番 号	機材名 (メーカー・規格・能力)	供与数
平成2年		コピーマシン (CANON, NP-4835S)	6
		コピーマシン (CANON, NP-6650)	1
		カラーテレビ (SONY, KV-27EXR15)	7
		輪転機 (GESTETNER, 1045B)	6
		車両 (TOYOTA, HIACE)	3
		焼付け機 (GESTETNER, 1103)	6
		実物反射投影機 (APOLLO, AL-5000)	6
		ビデオカメラ (SONY, CCD-TR5)	8
		マイクロフォンセット (BLPASO, P55)	7
		シンメルブッシュ (テラウエーバー, A-020)	6
		コンピューター (NEC, PC9801RX)	1
		ギャッジベッド (マキス, N15)	15
		マネキン (京都科学, M-32-11-103)	12
		マネキン (京都科学, M-15-11-211)	3
		導尿流腸トレーニングモデル (京都科学, M52-11-271-01)	12
		筋肉注射モデル (京都科学, NM-20-11329-0)	12
		静脈血管注射モデル (京都科学, M50-11-267)	12
		ワードプロセッサ (CANON, a5 SUPER)	1
		ワードプロセッサ (CANON, BUBBLE JET)	1
平成3年		ファックス (CANON, FAX-270S)	1
		車両 (TOYOTA, HI-ACE)	2

(10万円以上160万円未満の機材)

供与年度	番 号	機材名 (メーカー・規格・能力)	供与数
平成3年		キャッジベッド (モビライト, 4111112)	21
		小児ベッド (テラウエバル-, 2070-2954)	14
		コンピューター (CANON, C200-M53)	8
		マネキン (京都科学, M32-11-103)	12
		筋肉注射モデル (京都科学, M58-11-277)	12
		静脈血管注射モデル (京都科学, M50-11-267)	6
		マネキン (京都科学, M-15-11-211)	3
		バイタルサインビ-モデル (京都科学, M-54-11-273)	12
		電動式ファントム (京都科学, 8-32548)	6
		輪転機 (GESTETNER, 1045E)	3
		ビデオ編集システム (SONY, EV0-9800)	1
		実物反射投影機 (坂本モデル, B117)	1
		レコーディングマシン (ア-ムストロング, AA-1401)	7
		筋肉模型 (アトミカルチャート, B50)	3
		ビデオカメラ (SONY, CCD-TR5)	6
		スライドプロジェクター (KODAK, W/ZOOM)	7
		人体骨格模型 (ア-ムストロング, AA-9015)	6
		ストレッチャー (テラウエバル-, 1200-213)	7
		蓄電装置 (BEST, L1660)	2
		ワードプロセッサ (CANON, CANONWARD N3)	1
		内診モデル (KOKEN, LM-019)	1
平成4年		カラーテレビ (SONY, KPR-46BX35)	1
		キャッジベッド (マ-キス, M-115)	6
		マネキン (京都科学, M-1511211)	6
		静脈注射モデル (京都科学, M-5011267)	9
		バイタルサインビ-モデル (京都科学, M-5411273)	6
		内診モデル (コ-ケン, LM-019)	3
		分娩台 (カママ, KN-710)	5
		妊産婦モデルS型 (京都科学, P-611225)	9
		児頭旋回シミュレーター (京都科学, M-4511260)	4
		顕微鏡 (オリンパス, PM-035ADSZ)	6
		顕微鏡 (オリンパス, BHS313)	9
		カメラ (CANON, BOS1000QD)	2
		I C Uベッド (マ-キス, M-522)	1
		C P S 実習装置 (京都科学, 81K163)	1
		ストレッチャー (テラウエバル-, 1200-213-136)	10

4-4 ローカルコスト負担

(1) プロジェクト基盤整備費

プロジェクト基盤整備費をより本プロジェクトの拠点となるプロジェクトセンターが建設された。このセンターはテグシガルパ看護補助員養成校に隣接しており、カウンターパートである教師の訓練、及びデモンストレーションを行う実習施設である。また、視聴覚教材の作成、指導、研究発表会等もここで実施されている。

(2) 応急対策費

平成5年度9月から12月にかけて応急対策費により、自治大学ラセイバ校実習室の改善工事が行われた。長雨が降り、木喰虫により弱っていた箇所から水が入り、実習室が大きなダメージを受け、安全確保の点及び供与機材の保守管理の点から、早急な対応が必要とされていたものである。工事内容は木製床の腐食部修理、壁修理、天井設置、身体障害者用トイレの改善である。

(3) 現地セミナー開催費

現地セミナー開催費の負担によって、セミナーが活発に実施され、教授法等の技術移転が効果良く行われている。現在までに行われた主なセミナーは以下の通りである。

- ・看護教育原論セミナー
- ・保健調査セミナー
- ・教材開発セミナー
- ・教授法セミナー
- ・看護教育評価セミナー

附 属 资 料



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

THE MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE ADVISORY SURVEY TEAM AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF HONDURAS
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT ON THE FORTIFICATION OF NURSING EDUCATION

The Japanese Advisory Survey Team (hereinafter referred to as "The Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. MASAKO YANO, School of Health Sciences and Nursing, The University of Tokyo, visited the Republic of Honduras from March 24, 1994 to March 31, 1994, for the purpose of advisory survey of details of the technical cooperation program concerning the Project on the Fortification of Nursing Education (hereinafter referred to as "The Project").

During its stay in the Republic of Honduras, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Honduran authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for successful implementation of the Project.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Tegucigalpa, March 30, 1994

PROF. MASAKO YANO
Leader,
Advisory Survey Team,
Japan International Cooperation Agency,
JAPAN

DR. JUAN DE DIOS PAREDES
Vice Minister,
Ministry of Public Health,
The Republic of Honduras



A-



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

ATTACHED DOCUMENT

I.- GENERAL REVIEW

The Project started on September 1, 1990 for a period of five years for the purpose of fortifying the formation of the auxiliary nursing education through the teachers' training, as well as registered nursing teachers' training, and thus contributing to the improvement of public health in the Republic of Honduras.

In accordance with the Record of Discussions (hereinafter referred to as "the R/D") signed on August 16, 1990 by both sides, JICA has sent nine (9) long-term experts and seven (7) short-term experts to the Republic of Honduras and has accepted eleven (11) counterparts for technical training in Japan, and also has donated the equipments equivalent to two million one hundred eleven thousand US dollars for the smooth implementation of the Project.

According to the R/D and the Tentative Schedule of Implementation (hereinafter referred to as "the TSI"), both sides reviewed the achievement of the activities made so far regarding to the implementation of the Project. Therefore, based on the mutual recognition of the present state of the Project, both sides confirmed the continuous cooperation between the Japanese Government and the Honduran Government for further progress of the Project, and created a feasible implementation plan of the Project.

II.- ACHIEVEMENT OF THE TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

The technical cooperation activities under the Project have been carried out in Fiscal Years 1990, 1991, 1992 and 1993 refer to ANNEX I, II, III and IV.

The objectives of the Project agreed on the R/D have been successfully achieved so far.

mf

A



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

III.- TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION IN THE FUTURE

According to the TSI, both sides achieved and acquired the following agreements:

- a) To improve the theories and methods of nursing education in critical areas.
- * Strengthen the process of designing teaching plan through seminars.
 - * Strengthen the identification of key points to exercise and evaluate the practice.
 - * Establish new methods of evaluation in the practice.
 - * Strengthen the practice of maternal and child nursing area
 - * Strengthen the utilization of different educational resources in the development of teaching process
- b) To improve the curriculum of the nursing education
- * Strengthen the new curriculum elaborated by the National Autonomy University of Honduras through the survey by the Project.
 - * Continue the support in the development of the curriculum on the education of the Auxiliary Nurse.
 - * Strengthen the process of curriculum development for improvement when necessary.
- c) To improve and to fortify the techniques of practical education in the rural and urban areas.
- * Continue in the strengthening of the organization and supervision of social service.
 - * Print and apply the guidelines of social service.
 - * Strengthen integration between the teachers and the clinical instructors, and services in weak regions (Metropolitan Region, Region #2, Region #4 without excluding the support to other regions, Auxiliary Nursing Schools and University).
 - * Continue meetings to enhance the relationship between teachers and clinical instructors to strengthen the service the graduates render.
 - * Support the introduction of social service to the new curriculum of university.
 - * Improve the guidebook of social service

m.y

A.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

d) To improve education techniques for teachers

- * It is expected that teachers who have already been trained in the investigation area could form a new nucleus of investigation on nursing.
- * Systematize the outcome of investigation in Primary Health Care.

- * Carry out courses on teaching plan and the inter-institutional linkage in public health.
- * Strengthen the utilization of different educational resources and materials made by the teachers in the development of the teaching-learning process.

e) To improve the techniques of development for textbooks.

- * Prepare, edit and print the textbooks on "National Reality" and "Nursing of Maternal and Child".
- * Prepare the draft of the textbook "Nursing of the Adult and the Aged".
- * Prepare other manuals mutually agreed upon as necessary .
- * Prepare the records of each seminar

According to the present state of progress and other conditions of the Project, both sides jointly created the TSI of the Project for 1994 and 1995 as shown in ANNEX V.

1. Japanese side:

1.1- Dispatch of Japanese experts to Honduras

a) Long - term experts

- * Leader
- * Coordinator
- * Nursing education (Surgery)
- * Nursing education (Maternal and child)

my

A.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

- * Nursing education (Public health)
- * Nursing education (Education curriculum/ Educational technique)

b) Short – term experts

- * Nursing education (Educational technique / Curriculum assessment)
- * Nursing education (Field survey)
- * Other related fields mutually agreed upon as necessary.

1.2- Training of Honduran counterparts in Japan

- * Nursing education (Education curriculum)
- * Nursing education (Public health)
- * Nursing education (Maternal and child)
- * Nursing education (Surgery)
- * Other related fields mutually agreed upon as necessary

2. Honduran side

- 2.1- Securing the Honduran budgetary allocation in accordance with implementation of the Project.
- 2.2- Promoting the activity for preparing textbooks through fortifying the supervision and the personal aide to each school.
- 2.3- Strengthen the administration of the Auxiliary Nursing Schools where more difficulties are present.

IV.- METHODOLOGY OF EVALUATION OF THE PROJECT

In the final evaluation of the Project, the following points will be taken into consideration:

m.y

K



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

- a) The level of implementation of each objective of the agreement emphasizing on the issues explained in the TSI in the future, which was mutually agreed in March, 1994 during the visit of the Team.
 - b) Every annual plan and its implementation.
 - c) Investigation from administrative level of the Ministry of Public Health and the University, and from the technical level among beneficiaries of the Project.
- Based on the results corresponding measures will be taken.

Furthermore, the Team recommended the evaluation of the following issues to learn about the activities of the project from the view of public health policy:

- a) New programs implemented in the nursing education
- b) The improvement of teachers' level in theoretical and practical aspects.
- c) The changes influenced by the implementation of the Project.

- d) The desertion percentage of the counterparts trained in Japan from their jobs and the usage of the results in their training.
- e) The use and maintenance systems of equipments donated.
- f) The problems predicted to arise after the Japanese Technical Cooperation.

V.- REQUEST FROM THE GOVERNMENT OF HONDURAS TO THE JAPANESE GOVERNMENT

The matters which were requested to modify within the scope of the TSI were as follows:

- a) To fortify the nursing equipments in the hospitals where the students carry out their practice.
- b) To increase the number of the counterparts to be trained in Japan in 1995.
- c) To continue to improve the educational facilities.

m.y

A.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

The Honduran side suggested to consider the extension of the Project at the time of the final evaluation in 1995.

VI.- DISCREPANCY

This minutes was prepared in English and Spanish.

The documents in English will take precedence in case of the discrepancy between both documents.

M. Y.

A.

ANNEX I

LIST OF JAPANESE EXPERTS DISPATCHED BY JICA

LONG - TERM EXPERTS

LEADER

1. Ms. Yoshiko Sugawara 90.10.01 - 94.09.30

COORDINATOR

2. Mr. Itsuo Kuzasa 90.09.17 - 94.09.16

NURSING EDUCATION

3. Ms. Masako Oshima 90.10.01 - 92.09.30

4. Ms. Masako Asakura 90.11.29 - 91.11.28

5. Ms. Eiko Oshima 92.01.09 - 94.01.08

6. Ms. Atsuko Hayashi 92.04.23 - 94.04.22

7. Ms. Yumiko Murakami 92.05.14 - 94.05.13

8. Dr. Yoshie Mori 92.08.03 - 94.08.02

9. Ms. Yukiko Tomishima 93.05.17 - 95.05.16

SHORT - TERM EXPERTS

10. Mr. Hozumi Ogawa 91.02.24 - 91.03.19

92.07.01 - 92.07.16

11. Ms. Akiko Ito 91.06.17 - 91.07.01

12. Dr. Masami Matsuda 91.11.11 - 91.12.13

92.11.11 - 92.12.14

93.12.02 - 93.12.19

13. Ms. Mahiro Terada 92.02.12 - 92.03.13

14. Mr. Yasuhiro Koto 92.08.02 - 92.08.23

15. Ms. Masako Ogawa 93.05.24 - 93.07.21

93.09.30 - 93.10.25

16. Ms. Takako Hino 93.07.22 - 93.12.25

m-y

A

ANNEX II

LIST OF HONDURAN COUNTERPART PERSONNEL SENT TO JAPAN

ADMINISTRATION

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. Dr. Renato Valenzuela | 91.03.25 – 91.04.14 |
| 2. Ms. Liliana Mejia | 91.07.13 – 91.08.05 |

NURSING EDUCATION

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 3. Ms. Miriam Chang | 91.07.13 – 91.12.22 |
| 4. Ms. Rosa Maria de Berrios | 92.01.27 – 92.06.28 |
| 5. Ms. Iveth de Castañeda | 92.09.21 – 93.02.27 |
| 6. Ms. Rosario Valladares | 92.09.21 – 93.06.27 |
| 7. Ms. Cecilia Flores | 92.09.21 – 93.06.27 |
| 8. Ms. Idania Alcantara | 92.09.21 – 93.02.27 |
| 9. Ms. Tessa Hidalgo | 93.08.31 – 93.12.25 |
| 10. Ms. Sonia Bueso | 93.08.31 – 93.11.06 |
| 11. Ms. Lourdes Amador | 93.08.31 – 93.12.25 |

m.g.

A.

FY 1991

1) Manequin for nursing education	(15)
2) Injection simulator	(18)
3) Beds	(15)
4) Vehicles	(3)
5) Computers	(2)
6) Vital signs baby model	(12)
7) Stethoscopes	(100)
8) Oxygen supply set	(6)
9) Resusci baby	(6)
10) Suction set	(6)
11) Human body model	(6)
12) manequin to diagnose the process of child birth	(6)
13) Books	

TOTAL

68,462,000 (YEN)

505,000 (DOLLARS)

from

A.

FY 1993

1) Birth model	(24)
2) Pelvis model	(13)
3) Birth diagnostic model	(21)
4) Maternity manequin	(3)
5) Printer	(1)
6) Two way stethoscope	(30)
7) Pelvis measure	(25)
8) Neonatal manequin	(14)
9) Intravenous drip stand	(30)
10) Video editing system	(1)
11) Books	
12) Others	

TOTAL	49,000,000 (YEN)
	455,000 (DOLLARS)

GRAN TOTAL	263,500,000 (YEN)
	2,111,000 (DOLLARS)

CONSTRUCTION AND IMPROVEMENT OF THE EDUCATIONAL FACILITIES

- 1) Warehouse in CERARH SUR
- 2) Warehouse in CENARH
- 3) Project center
- 4) Schoolroom in CERARH NORTE
- 5) Laboratory in CURLA

TOTAL	33,600,000 (YEN)
	272,000 (DOLLARS)

my

A

ANNEX IV TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

OBJECTIVES AND ACTIVITIES	1990	1991	1992	1993	1994	1995
1.Improve the theories and methods of nursing education in critical areas		-----	-----	-----	-----	-----
2.Improve the nursing education curriculum		-----	-----	-----	-----	-----
3.Improve and fortify the techniques of practical education in rural and urban areas			-----	-----	-----	-----
4.Improve the techniques of education for teachers		-----	-----	-----	-----	-----
5.Improve the techniques of development for textbooks		-----	-----	-----	-----	-----
DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS						
(LONG-TERM)						
1.Leader		-----	-----	-----	-----	-----
2.Coordinator		-----	-----	-----	-----	-----
3.Nursing education (Education curriculum)		-----	-----	-----	-----	-----
4.Nursing education (Surgery)		-----	-----	-----	-----	-----
5.Nursing education (Pediatrics)		-----	-----	-----	-----	-----
6.Nursing education (Public health)		-----	-----	-----	-----	-----
(SHORT-TERM)						
7.Nursing education (Obstetrics)		-----	-----	-----	-----	-----
8.Nursing education (General)		-----	-----	-----	-----	-----
9.Nursing education (Curriculum evaluation)		-----	-----	-----	-----	-----
10.Others related fields mutually agreed upon as necessary.		-----	-----	-----	-----	-----

PLAN — IMPLEMENTATION

m.f.

A.

TRAINING OF HONDURAN COUNTERPART PERSONNELS IN JAPAN	1990	1991	1992	1993	1994	1995
1. Nursing education policy	PLAN	IMPLEMENTATION				
2. Nursing education (Surgery)	PLAN		IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION
3. Nursing education (Pediatrics)			IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION		IMPLEMENTATION
4. Nursing education (Gyneco-obstetrics)		IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION		IMPLEMENTATION
5. Nursing education (Curriculum evaluation)		IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION		
6. Nursing education (Public health)		IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION	IMPLEMENTATION	
7. Administration of nursing education		IMPLEMENTATION			IMPLEMENTATION	

PLAN — IMPLEMENTATION

Am

P.

OBJECTIVES AND ACTIVITIES	1994	1995
1. Improve the theories and methods of nursing education in critical areas 2. Improve the nursing education curriculum 3. Improve and fortify the techniques of practical education in rural and urban areas 4. Improve the techniques of education for teachers 5. Improve the techniques of development for textbooks		
DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS		
(LONG-TERM) 1. Leader 2. Coordinator 3. Nursing education (Education curriculum/Educational technique) 4. Nursing education (Surgery) 5. Nursing education (Obstetrics/Maternal and child) 6. Nursing education (Public health) (SHORT-TERM) 7. Nursing education (Educational technique/Curriculum assessment) 8. Nursing education (Field survey) 9. Other related fields mutually agreed upon as necessary		

my

A

TRAINING OF HONDURAN COUNTERPART PERSONNELS IN JAPAN	1994	1995
<p>1.Nursing education (Education curriculum)</p> <p>2.Nursing education (Public health)</p> <p>3.Nursing education (Maternal and child)</p> <p>4.Nursing education (Surgery)</p> <p>5.Other related fields mutually agreed upon as necessary.</p> <p>Note:Three counterparts of the above fields will be trained in Japan in each fiscal year.</p>		

my

T.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

MINUTA DE LAS DISCUSIONES SOSTENIDAS ENTRE
LA MISION JAPONESA DE OBSERVACION Y ASESORIA
Y LAS AUTORIDADES DEL GOBIERNO DE
LA REPUBLICA DE HONDURAS EN LO REFERENTE A
COOPERACION TECNICA JAPONESA
PARA
EL PROYECTO DE FORTALECIMIENTO DE LA EDUCACION EN ENFERMERIA

La Misión Japonesa de Observación y Asesoría (en lo sucesivo denominada "la Misión") organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón(en lo sucesivo denominada "JICA") y encabezada por la Lic. MASAOKO YANO, Profesora en Enfermería de la Universidad de Tokyo, visitó la República de Honduras del 24 de marzo de 1994 al 31 de Marzo de 1994, para efectos de revisar y evaluar las actividades referentes al Proyecto de FORTALECIMIENTO DE LA EDUCACION EN ENFERMERIA (en lo sucesivo denominado "el Proyecto").

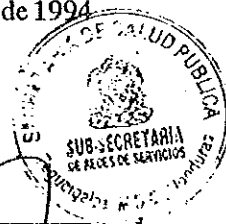
Durante su estadía en la República de Honduras, la Misión observó el progreso general, intercambió y sostuvo una serie de discusiones con las autoridades hondureñas con relación a las medidas convenientes que deberán tomar ambos gobiernos para la implementación en el futuro y la metodología de la evaluación del Proyecto.

Como resultado de la discusión ambas partes convienen los asuntos en los cuales se hace referencia en el documento adjunto.

Tegucigalpa, M.D.C., 30 de Marzo de 1994

LIC. MASAOKO YANO
Jefe Misión Japonesa de Observación
y Asesoría
Agencia de Cooperación Internacional del Japón
El Japón

DR. JUAN DE DIOS PAREDES
Vice Ministro
Ministerio de Salud Pública
República de Honduras





SECRETARÍA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PÚBLICA
REPÚBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMÉRICA

EL DOCUMENTO ADJUNTO

1.- REVISION GENERAL

EL PROYECTO comenzó el 1º de Septiembre de 1990 por un período de cinco (5) años, con el propósito de fortalecer la formación de Auxiliares de Enfermería, a través de la capacitación de las docentes así como la capacitación de las docentes de las Escuelas de Enfermeras Profesionales y de esta manera contribuir al mejoramiento de la salud de la población hondureña.

De acuerdo al Acta de Discusión firmado del día 16 de agosto de 1990 por ambas partes, (en lo sucesivo denominada "el A/D") JICA ha enviado nueve (9) expertos a largo plazo y siete (7) expertos a corto plazo a la República de Honduras y ha aceptado 11 contrapartes para la capacitación en el Japón, también ha donado equipos equivalentes a \$2,111,000 (Dos Millones Ciento Once Mil Dólares de los Estados Unidos) para la ejecución eficaz del Proyecto.

De acuerdo al A/D y al Plan Tentativo de Ejecución (en lo sucesivo denominado "el P.T.E."), ambas partes revisaron las actividades realizadas hasta ahora referente a la ejecución del Proyecto, basándose en el conocimiento mutuo del presente estado, confirmaron la cooperación continua entre el Gobierno del Japón y el Gobierno de Honduras para el progreso del Proyecto y formularon un plan de ejecución eficaz.

II.- REALIZACION DEL PLAN TENTATIVO DE EJECUCION

Las actividades de la Cooperación Técnica, basadas en el Proyecto, han sido llevadas a cabo en el año 1990, 1991, 1992 y 1993 y se presentan en el Anexo I, II, III, y IV.

Los objetivos del Proyecto acordados en el A/D se han llevado a cabo eficazmente hasta ahora.

Mcy

A.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

III.- PLAN TENTATIVO DE EJECUCION EN EL FUTURO

De acuerdo al P.T.E., ambas partes revisaron y adquirieron los siguientes acuerdos:

(a) Para mejorar las teorías y métodos de educación en enfermería en áreas críticas.

- * Fortalecer el proceso de planeación didáctica a través de jornadas de trabajo
- * Fortalecer la identificación de puntos claves para la ejecución y evaluación en la práctica
- * Establecer nuevos mecanismos de evaluación de la práctica
- * Fortalecer la práctica en el campo materno

(b) Para mejorar el curriculum de la educación en enfermería:

- * Fortalecer el nuevo curriculum elaborado por la Universidad Nacional Autónoma de Honduras a través del intercambio con las asesoras japonesas.
- * Continuar el apoyo en el desarrollo del curriculum en la formación de Auxiliares de Enfermería.
- * Apoyar el seguimiento al desarrollo curricular para fortalecerlo o mejorarlo en caso necesario.

(c) Para mejorar y fortalecer las técnicas de la práctica educacional en la zona rural y urbana.

- * Continuar fortaleciendo la organización, seguimiento y monitoría del Servicio Social.
- * Imprimir, difundir y aplicar los lineamientos que rigen el Servicio Social
- * Fortalecer el sistema de integración docencia - servicio en áreas débiles (Región Metropolitana, Región #2, Región #4 sin excluir el apoyo a otras regiones y centros universitarios).
- * Continuar las reuniones para estrechar los vínculos entre docencia - servicio para fortalecer el desempeño de los egresados y la prestación de servicios.

m. y

A.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

- * Apoyar la incorporación de contenido de Servicio Social en el nuevo curriculum de formación de profesionales de enfermería.
- * Mejorar la guía de orientación al servicio social.

(d) Para mejorar las técnicas de educación para las docentes:

- * Se espera que las docentes ya capacitadas en el campo de la investigación puedan formar un nuevo núcleo de investigación en enfermería.
- * Sistematizar la experiencia de investigación en Atención Primaria de Salud.
- * Realizar jornadas sobre planeamiento didáctico y articulación intersectorial en Salud Pública.
- * Fortalecer la utilización de diferentes recursos didácticos y materiales elaborados por las docentes en el desarrollo del proceso enseñanza – aprendizaje.

(e) Para el mejoramiento de técnicas para la elaboración de textos:

- * Elaborar, validar e imprimir los textos sobre "Realidad Nacional" y "Atención a la Mujer y el Niño".
- * Elaborar el primer borrador del texto "Atención al Adulto y Tercera Edad"
- * Elaborar otros manuales de acuerdo a necesidades.
- * Elaborar memorias de cada seminario.

De acuerdo al estado del progreso actual y otras condiciones del Proyecto, ambas partes mutuamente formularon el P.T.E. del Proyecto como se señala en el Anexo V.

El esquema del P.T.E. en los años fiscales 1994 y 1995 son los siguientes:

1.- Por parte del Gobierno Japonés:

1.1- Despacho de expertos japoneses a Honduras

a) Expertos a largo plazo

- * Jefe

m. y

A.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

- * Coordinador
- * Educación de Enfermería (Médico Quirúrgico)
- * Educación de Enfermería (Obstetricia Materno Infantil)
- * Educación de Enfermería (Salud Pública)
- * Educación de Enfermería (Curriculum y Tecnología Educativa)

b) Expertos a corto plazo

- * Educación de Enfermería (Asesoramiento de Curriculum y Tecnología Educativa)
- * Educación de Enfermería (Investigación)
- * Otros campos relacionados de mutuo acuerdo según necesidad

1.2- Capacitación de Contrapartes Hondureños en el Japón

- * Educación de Enfermería (Curriculum de Educación)
- * Educación de Enfermería (Salud Pública)
- * Educación de Enfermería (Materno Infantil)
- * Educación de Enfermería (Médico Quirúrgico)
- * Otros campos relacionados de mutuo acuerdo según necesidad

2.- Por parte del Gobierno Hondureño

- 2.1- Asegurar los recursos en el presupuesto nacional, distribuyéndolo de acuerdo con la ejecución del Proyecto.
- 2.2- Promover la elaboración de textos, a través de fortalecer la supervisión y el apoyo al personal de cada centro.
- 2.3- Fortalecer la capacidad gerencial del Centro Formador de Auxiliares de Enfermería donde se presentan mayores dificultades.

m.y

A.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

IV.- METODOLOGIA DE EVALUACION DEL PROYECTO

En la evaluación final del Proyecto se tomará en consideración:

- a) El nivel de ejecución de los objetivos del convenio haciendo énfasis en los puntos explícitados en el plan tentativo de ejecución en el futuro, elaborado en marzo de 1994 durante la visita de la Misión.
- b) Los planes operativos y las evaluaciones de proceso realizadas.
- c) Se realizará una investigación con los niveles políticos del Ministerio de Salud y de la UNAH y con los niveles técnicos beneficiarios del Proyecto.

Basándose en los resultados obtenidos de la evaluación, se tomarán las decisiones correspondientes.

También la Misión recomienda evaluar los siguientes puntos para conocer las actividades del Proyecto desde el punto de vista de la política de salud pública.

1. Nuevos programas implementados en la educación de enfermería.
2. El mejoramiento del nivel de docentes en los aspectos teóricos y prácticos.
3. Los cambios por la influencia de la implementación del proyecto.
4. El porcentaje de deserción de los becarios de sus puestos de trabajo después de la capacitación y la utilización de los resultados de la capacitación
5. El uso de equipos donados y el sistema de mantenimiento.
6. Los problemas previstos después de terminar la cooperación japonesa.

V.- SOLICITUD POR PARTE DEL GOBIERNO DE HONDURAS AL GOBIERNO DEL JAPON

Los asuntos que fueron solicitados para incorporar en el P.T.E. son los siguientes:

M.Y

A.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

1. Fortalecer los equipos de enfermería en los hospitales donde los estudiantes de enfermería realizan sus prácticas
2. Ampliar el cupo de las becas para 1995
3. Continuar reforzando el mejoramiento de los ambientes educativos

Se sugiere que la Misión evaluadora final considere aspectos de continuidad y sostenibilidad del Proyecto.

VI.- DISCREPANCIA

Esta minuta fue preparada en Inglés y Español, el documento en inglés regirá en caso de que surja discrepancia entre ambos documentos.

m. y

A.

ANEXO I

Listado de Expertos Japoneses despachados por JICA

EXPERTOS A LARGO PLAZO

LIDER

1. Lic. Yoshiko Sugawara 90.10.01 - 94.09.30

COORDINADOR

2. Ing. Itsuo Kuzasa 90.09.17 - 94.09.16

EDUCACION EN ENFERMERIA

3. Lic. Masako Oshima 90.10.01 - 92.09.30

4. Lic. Masako Asakura 90.11.29 - 91.11.28

5. Lic. Eiko Oshima 92.01.09 - 94.01.08

6. Lic. Atsuko Hayashi 92.04.23 - 94.04.22

7. Lic. Yumiko Murakami 92.05.14 - 94.05.13

8. Dra. Yoshie Mori 92.08.03 - 94.08.02

9. Lic. Yukiko Tomishima 93.05.17 - 95.05.16

EXPERTOS A CORTO PLAZO

10. Arq. Hozumi Ogawa 91.02.24 - 91.03.19

92.07.01 - 92.07.16

11. Lic. Akiko Ito 91.06.17 - 91.07.01

12. Dr. Masami Matsuda 91.11.11 - 91.12.13

92.11.11 - 92.12.14

93.12.02 - 93.12.19

13. Lic. Mahiro Terada 92.02.12 - 92.03.13

14. Lic. Yasuhiro Koto 92.08.02 - 92.08.23

15. Lic. Masako Ogawa 93.05.24 - 93.07.21

93.09.30 - 93.10.25

16. Lic. Takako Hino 93.07.22 - 93.12.25

m. y

A.

ANEXO II

Listado de Personal Contraparte Hondureña Enviados a Japón

ADMINISTRACION:

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. Dr. Renato Valenzuela | 91.03.25 – 91.04.14 |
| 2. Lic. Lilliana Mejia | 91.07.13 – 91.08.05 |

EDUCACION EN ENFERMERIA

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 3. Lic. Miriam Chang | 91.07.13 – 91.12.22 |
| 4. Lic. Rosa Maria de Berrios | 92.01.27 – 92.06.28 |
| 5. Lic. Iveth de Castañeda | 92.09.21 – 93.02.27 |
| 6. Lic. Rosario Valladares | 92.09.21 – 93.06.27 |
| 7. Lic. Cecilia Flores | 92.09.21 – 93.06.27 |
| 8. Lic. Idania Alcantara | 92.09.21 – 93.02.27 |
| 9. Lic. Tessa Hidalgo | 93.08.31 – 93.12.25 |
| 10. Lic. Sonia Bueso | 93.08.31 – 93.11.06 |
| 11. Lic. Lourdes Amador | 93.08.31 – 93.12.25 |

my

A.

ANEXO III

PROVISION DE MAQUINARIA Y EQUIPO

Maquinaria, equipos y otros materiales (en los sucesivo denominado equipamiento) necesario para la implementación del Proyecto, fueron entregados en el año fiscal 1990, 1991, 1992 y 1993.

La siguiente es la lista de equipos básicos donados a las Escuelas de Enfermería y a la sede del Proyecto

AÑO FISCAL 1990

1) Vehículos	(6)
2) Fotocopiadoras	(7)
3) Máquinas de Escribir	(9)
4) Mimeógrafos	(6)
5) Cámaras Fotográficas	(8)
6) Computadoras	(1)
7) Sistema de Micrófonos	(7)
8) Equipo de Televisión	(7)
9) Retroproyectores	(7)
10) Proyector de Diapositivas	(7)
11) Maniqués para Educación en Enfermería	(15)
12) Estetoscopios	(90)
13) Simulador de Enema	(60)
14) Simulador de Inyección	(15)

TOTAL

66,038,000 (YENES)

508,000 (DOLARES)

m.y

A

AÑO FISCAL 1991

1) Maniquí para Educación en Enfermería	(15)
2) Simulador de Inyección	(18)
3) Camas	(15)
4) Vehículos	(3)
5) Computadoras	(2)
6) Modelo de Niño para signos vitales	(12)
7) Estetoscopios	(100)
8) Set de Oxigenoterapia	(1)
9) Maniquí de Resucitación en Niños	(6)
10) Equipo de Succión	(6)
11) Maniquí de Cuerpo Humano	(6)
12) Maniquí de Diagnóstico de Cuello Uterino, Proceso de Parto	(6)
13) Libros	

TOTAL

68,462,000 (YENES)

505,000 (DOLARES)

m.y

A.

AÑO FISCAL 1992

1) Camas	(6)
2) Microscopios	(15)
3) Maniquí de Educación en Enfermería	(6)
4) Simulador de Inyección	(18)
5) Maniquí de signos vitales en el Niño	(6)
6) Equipo de demostración de Terapia Intensiva	(1)
7) Camillas	(10)
8) andador	(20)
9) Silla de ruedas	(30)
10) Sistema de Oxígeno	(30)
11) Vehículo	(1)
12) Libros	

TOTAL

80,000,000 (YENES)

643,000 (DOLARES)

m-y

A.

AÑO FISCAL 1993

1) Modelos de Parto	(24)
2) Modelos de Pelvis	(13)
3) Modelos de Diagnóstico de Etapas del Parto	(21)
4) Maniqués de Mujer Embarazada	(3)
5) Impresor	(1)
6) Estetoscopios de Doble Vía	(30)
7) Medidores de Pelvis	(25)
8) Maniqués de Bebé Recién Nacido	(14)
9) Soporte de Suero	(30)
10) Sistema de Edición de Video	(1)
11) Libros	
12) Otros	

TOTAL	49,000,000 (YENES)
	455,000 (DOLARES)

GRAN TOTAL	263,500,000 (YENES)
	2,111,000 (DOLARES)

CONSTRUCCION Y MEJORAMIENTO DE AMBIENTE EDUCACIONAL

- 1) Bodega del CERARH SUR
- 2) Bodega del CENARH
- 3) Centro sede del Proyecto
- 4) Aulas en el CERARH NORTE
- 5) Laboratorio en CURLA

TOTAL	33,600,000 (YENES)
	270,000 (DOLARES)

m.y

A.

ANEXO IV PLAN TENTATIVO DE EJECUCION

OBJETIVOS Y ACTIVIDADES	1990	1991	1992	1993	1994	1995
1. Mejorar las teorías y métodos de la educación de enfermería en áreas críticas						
2. Mejorar el programa de estudio de la educación de enfermería						
3. Mejorar y fortalecer las técnicas de la educación práctica en las áreas rurales y urbanas marginales.						
4. Mejorar las técnicas para la educación de docentes.						
5. Mejorar las técnicas para el desarrollo de libros de texto.		—	—	—		
ENVIO DE EXPERTOS JAPONESES						
(LARGO PLAZO)						
1. Jefe						
2. Coordinador						
3. Educación de enfermería (Programa de Estudio)						
4. Educación de enfermería (Médico Quirúrgico)						
5. Educación de enfermería (Pediatria)						
6. Educación de enfermería (Salud Pública)		—	—	—		
(CORTO PLAZO)						
7. Educación de enfermería (Obstetricia)		—	—	—		
8. Educación de enfermería (General)		—	—	—		
9. Educación de enfermería (Evaluación de Programas de Estudio)		—	—	—		
10. Otros		—	—	—		

PLAN — EJECUCION

m4

A.

CAPACITACION DEL PERSONAL HONDURENO EN EL JAPON	1990	1991	1992	1993	1994	1995
1. Politicas en torno a la educacion en enfermeria	—	—				
2. Medico Quirurgico	—	—	—	—	—	—
3. Pediatria			—	—		—
4. Gineco-Obstetricia			—	—		—
5. Evaluacion de programas de Estudios		—	—			
6. Salud Publica		—		—	—	
7. Administracion de la educacion en enfermeria		—	—	—	—	

PLAN — EJECUCION

m/z

A.

ANEXO V PLAN TENTATIVO DE EJECUCION

OBJETIVOS Y ACTIVIDADES	1994	1995
1.Mejorar las teorias y metodos de la educacion de enfermeria en areas criticas 2.Mejorar el programa de estudio de la educacion de enfermeria 3.Mejorar y fortalecer las tecnicas de la educacion practica en las areas rurales y urbanas marginales. 4.Mejorar las tecnicas para la educacion de docentes. 5.Mejorar las tecnicas para el desarrollo de libros de texto.		
ENVIO DE EXPERTOS JAPONESES		
(LARGO PLAZO) 1.Jefe 2.Coordinador 3.Educacion de enfermeria (Programa de Estudio) 4.Educacion de enfermeria (Medico Quirurgico) 5.Educacion de enfermeria (Obstetricia/Materno-infantil) 6.Educacion de enfermeria (Salud Publica) (CORTO PLAZO) 7.Educacion de enfermeria (Tecnicas educacionales/Evaluacion curricular) 8.Educacion de enfermeria (Investigacion) 9.Otros		

m.4

A.

CAPACITACION DEL PERSONAL HONDURENO EN EL JAPON	1994	1995
1.Educacion en enfermeria (Programa de estudios) 2.Educacion en enfermeria (Salud Publica) 3.Educacion en enfermeria (Materno-infantil) 4.Educacion en enfermeria (Medico Quirurgico) 5.Otros Nota:Tres contrapartes de dicho campo van a capacitarse en Japon en cada ano fiscal.		

my

A.

② 1992・1993年のテグシガルバ看護補助員養成校における授業展開

1. 授業展開の場所と科目の進め方の相違

	1992年	1993年
実習・授業 展開場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ FLOR DEL CAMPO ・ LOS PINOS (地域社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ EL MANCHEN (学校に近い地域社会) ・ SAN MIGUEL (会を選出)
各専門基礎科目 の関連性	各科目毎に授業が展開されて専門基礎科目が完全に終了後、看護学に入る	専門基礎科目全科目まとめて総論として展開後、引続き専門看護学の中に取り組み進む
基礎看護実習の 展開場所、時期 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 CESARで別々に実施 ・ 母子看護導入部として6月末から2週間 ・ 既科目のまとめと基礎看護技術の他に妊婦検診時の看護技術等が含まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員の学生が学校に戻り3日間で行われた看護技術を学ぶ ・ 一般科目の総論の最終5週目(4月上旬)に実施 ・ 母子看護技術については母子看護展開途中で実施
母子看護の展開 場所と対象患者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象は妊産婦と乳幼児 ・ 母子病院の産科(分娩・褥室と小児科(乳児病棟と集中観察室)で展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12才から49才までの妊娠可能な女性と乳幼児 ・ 2段階に分けられる。最初は入院患者の理解と基本的看護の習得を胸部病院やサンフェリッペ病院の婦人科・女性病棟と小児病棟で実習。その後母子病院へ移動して分娩棟や乳児病棟等で専門技術を習得。
教師の配置	コミュニティと保健所の両方を1名の教師が担当。病院は各病棟を2名の教師が担当。教師は同場所において学生が移動。	コミュニティと保健所は別々に1名の教師が担当。病院は各病棟を1名の教師が担当。教師は同場所において学生が移動。
評価・モニター リング	各実習終了後、教師学生がCENARHに集合	左記同様と毎週金曜日教師がCENARHに集合してプログラムの検討

③ 看護教育カリキュラム

1. 10ヶ月課程（看護補助員養成校）

名 称	時 間	
	理 論	実 習
オリエンテーション	6	2
国の現状	25	10
伝染病	24	37
社会参加	72	99
食量保障	32	42
衛 生	4	18
母性看護	96	270
小児看護	83	228
成人看護	79	122
管 理	35	175
小 計	456	1003
総 計	1,459時間	

2. 2年課程（私立、宗教、軍関係等）

事実上、毎年のように養成していますが、原則は毎年厚生省へ申請し、許可を得たうえで実施しなければなりません。

養成校数、学生数ともその時の必要数となっています。そのため、公式には10ヶ月課程の3校の看護補助員養成校でよいそうです。

④ 旧カリキュラムと新カリキュラムとの比較

(看護補助員養成校)

< 単位名と時間数 >

旧カリキュラム		新カリキュラム	
オリエンテーション	8 時間	オリエンテーション	8 時間
		社会状況 (35)	講義 25 時間 実習 10 時間
		地域参加 (171)	講義 72 時間 実習 99 時間
		栄養 (74)	講義 32 時間 実習 42 時間
		衛生 (22)	講義 4 時間 実習 18 時間
		伝染病 (61)	講義 24 時間 実習 37 時間
基礎看護 (284)	講義 81 時間 実習 203 時間	成人・老人看護 (201)	講義 79 時間 実習 122 時間
疾患の看護 (565)	講義 245 時間 実習 320 時間	小児看護 (311)	講義 83 時間 実習 228 時間
母性看護、伝染病 (490)	講義 170 時間 実習 320 時間	母性看護 (366)	講義 96 時間 実習 270 時間
管理 (51)	講義 36 時間 実習 15 時間	管理、地域における看護 サービス (210)	講義 35 時間 実習 175 時間
時間数計	1398時間	時間数計	1459時間

⑤ 自治大学の新カリキュラムについて

カリキュラムは国の教育の根幹であるためホンデュラス自身が作成するもので、助言を求められた時にのみ当方の考えを述べるがカリキュラムの改善に対する基本的スタンスである。そのため、カリキュラムの運用面について活動を展開しており、大学の新カリキュラム作成の遅れがプロジェクト活動に影響を及ぼすことはない。

上記の事を念頭に置いて頂き、今までの事実計画の説明と今後予想される活動について寸評させて頂く。

(事実経過)

1987年にカリキュラム検討委員会が発足し、旧カリキュラムのウイークポイントの調査が実施された。

その結果、住民への保健サービスが少ないことが解った。

また、伊藤専門家によるセミナーで2000年に向けてあるべき看護婦像が明らかにされ、カリキュラム改善に理論的補強ができた。その間、PAHOのアドバイザーやラテン諸国のアドバイザーからカリキュラム改善に当たっての助言を得、新カリキュラムの概念を完成させた。そして単元毎の詳しい内容の作成を各校で分担した。

ラセイバ校	母子看護
サンペドロスーラ校	成人看護
テグシガルパ校	社会と看護

1994年から教育制度も正看護婦養成コースが廃止され、学士看護婦養成の1本に絞られた。

そして新カリキュラムがこれと同時にスタートした。

(今後予想される要望事項)

1. 統合化カリキュラムの概念が盛り込まれているが、当国でこの方法を理解し、展開できる教師がいない。

そのため、日本人専門家に展開方法の協力依頼がくる可能性が大きい。

2. カリキュラムの概念は固まったが、実施のための詳細な内容がまだ一部分しか決められていない。

具体的に言うと、第1年目の前半は詳しくカリキュラム内容が決定されたが、それ以降の物は少なく、授業の実施と平行して現在第1年目後半の内容が作成されている。

この方法は日本人にとって考えられない事であるが、当国では日常よくある方法で、驚くに値しない。

但し、カリキュラム内容の決定に難行した場合、日本人専門家への協力依頼があると予想される。

⑥ 看護教育カリキュラム

1. 3年課程（自治大学看護学科）

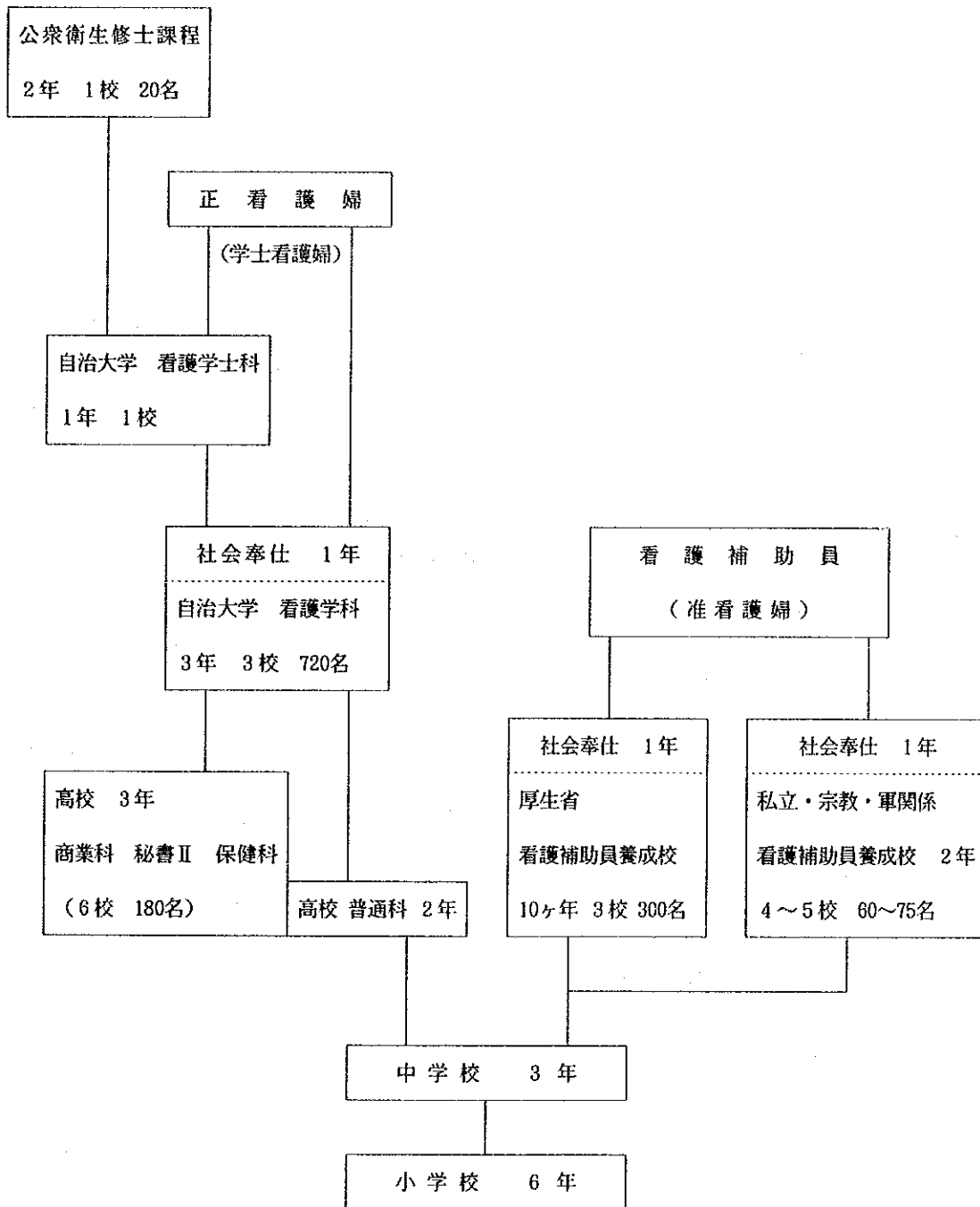
科目	時間		科目	時間	
	講義	実習		講義	実習
心理学	80	48	薬理学	96	
社会学	64		微生物学	96	
英語Ⅰ	64		看護学Ⅰ	64	128
英語Ⅱ	64		看護学Ⅱ	64	128
英語Ⅲ	64		看護学Ⅲ	80	240
西語Ⅰ	64		看護学Ⅳ	80	240
西語Ⅱ	64		看護学Ⅴ	80	240
統計学	64		看護学Ⅵ	112	336
化学	112		看護学Ⅰ		
有機化学	128		—演習		128
哲学	64		看護学Ⅱ		
体育			—演習		128
感染症	48		管理概論	160	
生物学	80				
形態学	128				
生理学	96				
			小計	2016	1616
			総計	3,632時間	

⑦ 看護教育カリキュラム

1. 学士課程（1年）

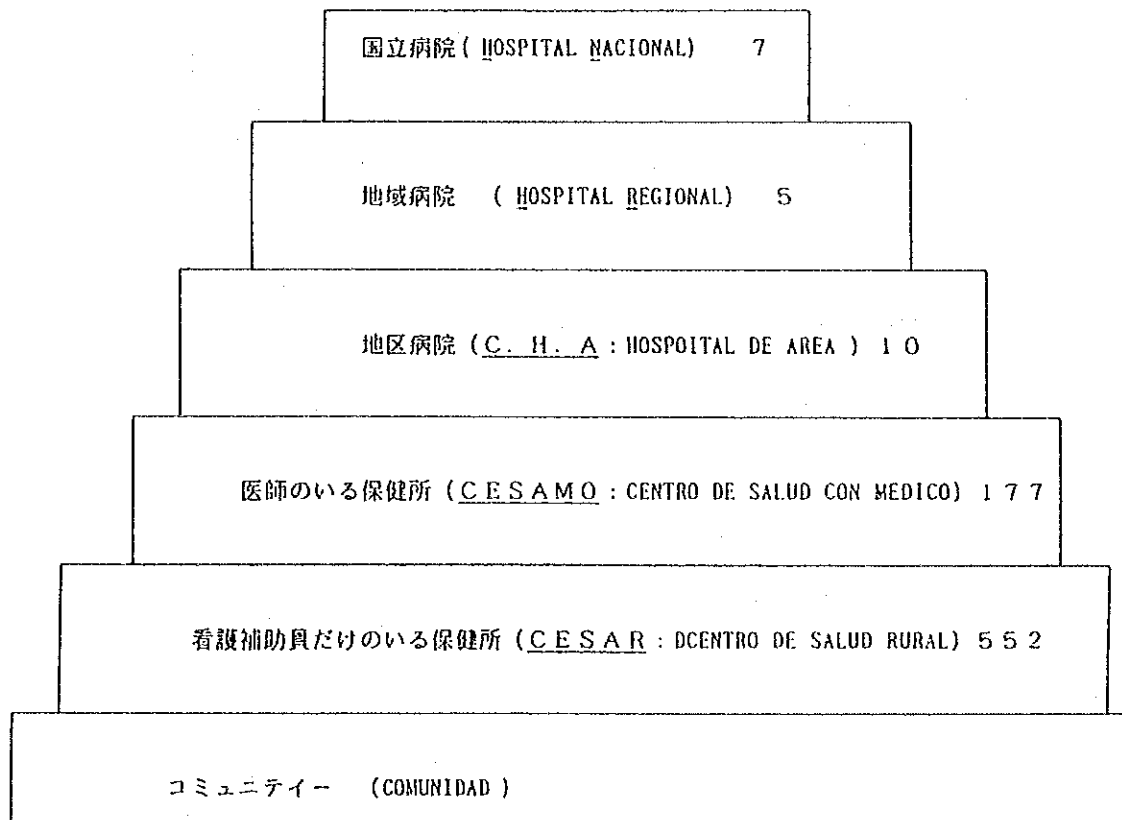
科目	時間		※ 選 択 科 目		
	講 義	実 習	コース	科 目	時間
管理	80	32	コース		
統計調査	80				
衛生教育	80	32			
看護学Ⅶ	80	32	心理学科	社会心理	5
管理Ⅱ	80	32		人間関係	3
研究方法	80	16		産業心理	4
看護学Ⅷ	80	48			
※ 選択科目	48～		教育学科	教育学一般	5
	80			教授一般	5
研究（卒業論文）		80		教育管理	4
				教育心理	4
				人的管理	5
小 計	608～	272		管理一般	5
	640			人間関係	5
				発展のため	3
総 計	880～912		国家管理	の管理	
				人的管理Ⅰ	5
				人的管理Ⅱ	5
				管理者	3
			看護学科	政治・社会	4
				経済の現状	
				と看護	
			計		65

⑧ 看護教育制度（ホンデュラス共和国・1993年）



⑨ 医療サービスシステム (ホンデュラス共和国)

1. 厚生省管轄の医療サービスシステム (1991年)



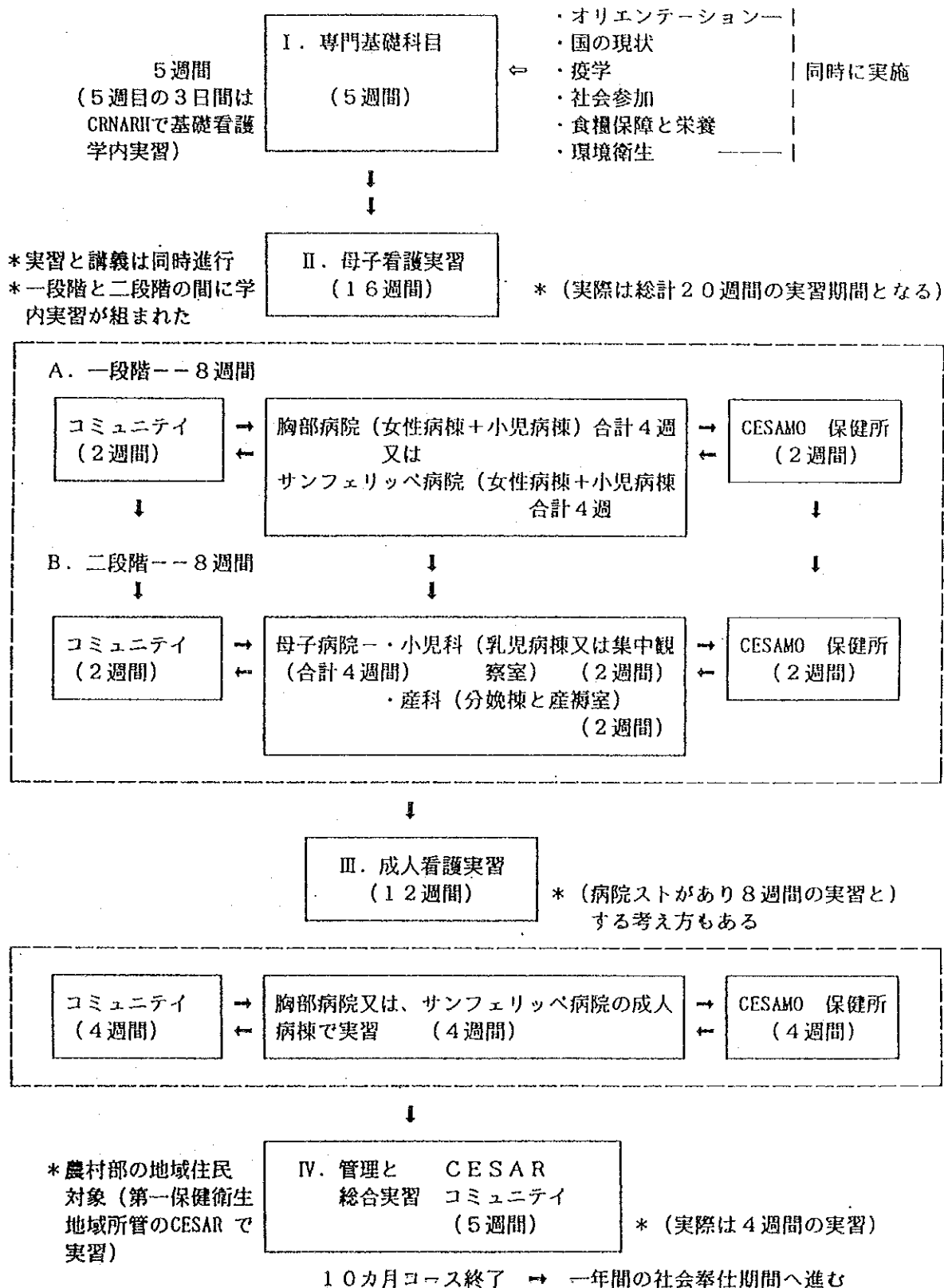
2. 地域別の医療施設数 (1991年)

保健衛生地域名	CESAR	CESAMO	地区病院	地域病院	国立病院	人口
REGION METROPOLITANA (首都局)	15	14	0	0	6	706193
REGION 1	65	22	1	0	0	448596
" 2	82	20	1	1	0	494455
" 3	88	37	4	0	1	1316058
" 4	90	22	0	1	0	503059
" 5	85	25	0	1	0	505862
" 6	64	21	3	1	0	528701
" 7	51	13	0	1	0	312143
" 8	12	3	1	0	0	38127

総人口 : 4,853,194

⑩ 1993年の授業展開図式（看護補助員養成校の例）

〔1994年1月
大島専門家報告書より〕



① 現地セミナー開催実施報告書

平成3年7月1日

国際協力事業団
総 裁 殿

報告者
ホンデュラス共和国
看護教育強化計画
チームリーダー 菅原 能子

先に承認のあった現地セミナーを下記の通り開催したので報告します。

記

1. セミナーのタイトル: 2000年に向けての将来の看護婦像
2. 開催日時 : 1991年6月24日から6月28日(5日間)
日程については別添-1の通り
3. 参加者: 参加者名簿・出席表は別添-2の通り
4. 所 感: 別添-3の通り
5. 経費報告 : 受給金額: 914,000円
支出金額: 914,000円
清算残 : 0円

(添付書類)

- | | |
|------------------|----------|
| セミナー開催費受払報告書 | 別添-4. 1- |
| セミナー開催費出納簿(現地通貨) | 別添-4. 2- |
| セミナー開催費ドル口座出納簿 | 別添-4. 3- |
- 尚、証憑書類はJICAホンデュラス事務所へ提出済みです。

参考資料

- A. セミナーノート
- B. ポスター
- C. アンケート用紙 アンケート結果については第2四半期定期報告書
で報告致します。
- D. 受講終了証書
- E. 出欠コントロール表

セミナー予定表

平成3年6月18日

日	時	内 容	講 師
6月24日(月)			
	9:00	開会式	
	10:30	セミナープログラム紹介, オリエンテーション 通訳紹介	リアナ
	11:00	休憩	
	11:10	ホンデュラスの人材養成の展望	マイラ チヤン
	12:00	昼食	
	13:30	ホンデュラスの看護教育における これからのテーマ	エリアビネガ
	14:30	休憩	
	14:45	2000年に向けて求められる看護婦と 看護教育	伊藤
	17:00	終了	
6月25日(火)			
	08:00	看護婦教育についての現状紹介 －ホンデュラスの大学における看護教育－	クリスタベル
	10:00	休憩	
	10:15	准看護教育の現状 －ホンデュラスにおける准看護教育－	レティシア ソニア
	12:00	昼食	
	13:30	日本の看護教育の現状	伊藤
	15:00	休憩	
	15:15	日本における看護教師の養成の現状	伊藤
	17:00	終了	
	19:00	大使公邸にて夕食会	

日	時	内 容	講 師
6月26日(水)			
	08:00	教授法をテーマにしたグループワークの導入	伊藤
	09:30	休憩	
	09:45	教授法をテーマにしたグループワークの導入	ミアンチャン
	11:30	グループワークのためのオリエンテーション	リアナ
	12:00	昼食	
	13:30	グループワーク	
	15:00	休憩	
	15:15	グループワーク	
	16:30	終了	
6月27日(木)			
	08:00	グループワーク	
	10:00	休憩	
	10:15	グループワーク	
	12:00	昼食	
	13:30	各グループからの発表 6グループ各15分	
	15:00	休憩	
	15:15	各グループからの発表 4グループ各15分	
	16:15	総合質疑応答	リアナ
	17:00	終了	
	18:00	夕食会	
		*時間があればスライドによる日本の 看護婦の活動、保健の現状紹介	
6月28日(金)			
	08:00	グループワークに対する総評	伊藤
	09:30	休憩	
	09:45	終講式 終了証書授与	伊藤、菅原 バレンスエラ、エンリケータ
	11:00	人的資源局長のメッセージ	バレンスエラ

43	CAROL ELWIN	HOPE
44	LUISA R. DE RODRIGUEZ	HOSP. ATLANTIDA
45	GLORIA EMILIA HERNANDEZ	HOSP. DEL SUR
46	ELVIA JULIA PENA GALINDO	HOSP. ESCUELA
47	MARILIA JEREDA	HOSP. ESCUELA
48	EDA BONILLA PLATA	HOSP. M. C. RIVAS
49	MIRNA NUNEZ LINARES	HOSP. M. C. RIVAS
50	GLADYS E. CASTELLANOS	HOSP. S. R. COPAN
51	ARGELIA GALLO NAVARRO	HOSP. SAN FRANCISCO
52	ELENA MARITZA DE SOLIS	HOSP. SANTA ROSITA
53	TERESA MARIBEL CARRILLO SALGADO	HOSP. TORAX
54	EVA BRICENO M.	I. H. S. S. (S. P. S.)
55	RUBENIA BANEGAS DE VELASQUEZ	REGION 1
56	MARIA DE LA PAZ ORTIZ DE CAMPO	REGION 2
57	MARTHA GARCIA DE RODRIGUEZ	REGION 3
58	CARMEN M. DE PAZ	REGION 4
59	MARITZA MEJIA	REGION 5
60	LETICIA DE FOOT	REGION 6
61	LETICIA DIAZ DE GALVEZ	REGION 7
62	MARITZA DE HIGUERO	REGION METRO.
63	REGINA SIERRA DE FIGUEROA	REGION METRO.
64	ROSA MARIA NAVAS	REGION METRO.
65	SILVIA LOPEZ	REGION METRO.
66	AIDA HERRERA DE SILVA	UNAH
67	ANA MARIA SANCHEZ DE DAVILA	UNAH
68	ELIA LOPEZ	UNAH
69	ENMA CASTRO MENDEZ	UNAH
70	NORMA AZUCENA LAINEZ ALVAREZ	UNAH
71	REBECA HERRERA	UNAH
72	REYNA LIDYLIA GROGAN	UNAH
73	YUDHY SANCHEZ ESCOTO	UNAH
74	RINA YOLANDA ALVARADO DE MEJIA	UNAH
75	FRANSISCA DE VALENZUELA	REGION 2
76	MARIA DE LOURDES AMADOR	UNAH
77	MARIA ELENA CACERES	UNAH
78	ARGENTINA DE BORJAS	I. H. S. S. (TEG.)

LISTA DE PARTICIPANTES	
NOMBRE	INSTITUCION
1 ALBA LUZ COLLART	CENARH
2 DOLORES FERMAN	CENARH
3 MARTHA BEATRIZ SALGADO	CENARH
4 MIRIAN YOLANDA CHANG ZELAYA	CENARH
5 ROSA HAYDEE ARGENAL	CENARH
6 ROSA MARIA FLORES DE BERRIOS	CENARH
7 SOLEDAD DE SABILLON	CENARH
8 THELMA YADIRA BANEGAS	CENARH
9 ESTER PALMA SEVILLA	CENARH (ESPERANZA)
10 ADA ALICIA PALACIOS DE CHEVEZ	CERARH NORTE
11 CARMEN NOLASCO	CERARH NORTE
12 DOROTEA LABORIEL MANAIZA	CERARH NORTE
13 PAULA DOLORES ARDON	CERARH NORTE
14 ROSA CECILIA FLORES	CERARH NORTE
15 SONIA BUESO DE SERRANO	CERARH NORTE
16 ZARA E. MONZON	CERARH NORTE
17 ANA ESTHER VIVAS	CERARH SUR
18 ELVIN MAVIS KELLY	CERARH SUR
19 FRANCIA J. CARRANZA RODRIGUEZ	CERARH SUR
20 IDANIA MARIA ALCANTARA	CERARH SUR
21 MARIA LUISA SOLORZANO	CERARH SUR
22 MARLEN CASTILLO SERRANO	CERARH SUR
23 NORMA ONDINA MORADEL	CERARH SUR
24 YOLANDA ECHENIQUE DE ARGENAL	CERARH SUR
25 LORENA MAGDALENA AVILA	COLEGIO ENF.
26 MARIA ENRIQUETA LOPEZ	COLEGIO ENF.
27 DULCE MARIA RAMIREZ	CURLA
28 ELIA ONDINA DE LOPEZ	CURLA
29 HERMIDIA GONZALEZ M.	CURLA
30 IVTHE G. DE CASTANEDA	CURLA
31 NOHEMI MERCEDES MONTALVAN	CURLA
32 ODILA RAMIREZ LOZANO	CURLA
33 ROSA L. DE MONTOYA	CURLA
34 EDA NOHEMY MENDOZA DE MORENO	CURN
35 LEONOR GARCIA	CURN
36 MARTHA E. LOPEZ DE CASTRO	CURN
37 MARTHA JULIA DE BLAIR	CURN
38 MARTHA LIPIA SANDERS DE RIOS	CURN
39 NIDIA ANDRADE BARDALES	CURN
40 NORMA UREUTIA DE ALFARO	CURN
41 SILVIA ESCOBAR DE SOLIS	CURN
42 ZOILA RUTH VENTURA DE LOPEZ	CURN

4. 所 感

伊藤暁子短期専門家を迎えて、ホンジュラス・テグシガルバ市の看護協会会館において実施された看護教育セミナーは、大きな成果を得て終了したことを報告する。

別添の日程表に添って、第一日目及び第二日目はホンジュラス側看護婦らによる一般教育、看護教育の現状にかかわる報告や、今後の人材養成に望まれるものなどの発表があり日本側からは伊藤専門家の2000年に向かって求められる看護婦と教育及び日本の看護教育制度、カリキュラムをテーマにした講演が行われ、参加者からはこれからの課題をクリアにするための大きなものを得たとの感想が出された。

第三日目にはグループ討議につながるテーマとして、教授法の基本となるものの講演に引き続きグループワークに入った。

各グループ共に第一日目からの内容が全て投入されたかの如く、熱心な討議が続けられて、それぞれのグループを回られた伊藤専門家からも、グループ運営には未熟な点があるものの大切なポイントを押さえた意見も出されているとの評を受けた。

グループ討議のあり方に関しては、今後の我々の活動を通して改善すべき点が大いに残されていることも浮き彫りにされた。

最終日の伊藤専門家による講評は、より具体的な例をもって行われ、参加者から気づきがざわめきとなっておこる程の反応が得られた。

3月20日のセミナー委員会発足を皮切りにして、会場の手配と準備、ポスター、プログラム作成、出席者の参加呼びかけと所属先の参加承認のための手続きなど、プロジェクトを核にしてホンジュラスと日本側の開催までのスクラムの結果をベースにして、75名の参加者、15名の組織運営に携わった者、6名の補助員をもって、今回のセミナーの目標は達せられた。

出席率 97.57%は驚異的な数値であり、伊藤専門家が豊富な経験と知識をもとに、大きなあたたかい懐を広げて参加者に語りかけた『教えることとは』が、ホンジュラスの看護婦らとの距離をなくし、感動を呼んで上記の出席率となったことは疑いがない。

多くの参加者が残した「今度いつ先生は我々のところへ戻ってきて下さるのか」を、今回のセミナーの結果を表現するのに最もふさわしい言葉として日本へ紹介したい。

以上

JICA



LIB